検　証

国見町東日本大震災検証委員会設置要綱

（目的）

第１条　平成２３年３月１１日に発生した東日本大震災の検証を行い、町民の防災意識の高揚と、今後の防災対策に役立てるために作成する検証結果報告書の作成およびその意見を求めるため、国見町東日本大震災検証委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事項）

第２条　委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

（１）東日本大震災の検証に関すること。

（２）町民アンケート及び庁内検証結果の分析に関すること。

（３）その他検証結果報告書作成に必要な事項に関すること。

（組織）

第３条　委員会は、町長が委嘱又は任命する別表に定める委員をもって構成する。

２　委員の任期は、平成２５年５月１７日から平成２６年３月３１日までとする。

（委員長及び副委員長）

第４条　委員会に委員長及び副委員長各１人を置き、委員の互選とする。

２　委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

３　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第５条　委員会は、必要に応じて委員長が招集する。

２　委員長は、必要があると認めるときは、会議に関係者の出席を求め、説明または意見を求めることができる。

（庶務）

第６条　委員会の庶務は、住民生活課において処理する。

（補則）

第７条　この要綱に定めるもののほか、委員会の運営その他に関し必要な事項は、町長が別に定める。

附則

１　この要綱は、平成２５年５月１７日から施行する。

２　この要綱は、平成２６年３月３１日限りで効力を失う。

別表（第３条関係）

機関・所属
国見町消防団
国見町町内会長連絡協議会（自主防災会）
国見町婦人会連絡協議会
国見町民生児童委員協議会
国見町土木建設業協会
国見町社会福祉協議会
伊達地方消防組合中央消防署西分署
福島北警察署桑折分庁舎
福島県県民健康管理課
福島県県北地方振興局県民生活課
福島県県北流域下水道建設事務所
国土交通省福島河川国道事務所
東北電力㈱福島営業所
NTT 東日本㈱福島支店
国見町

国見町東日本大震災検証委員会委員名簿

	機関・所属	職　名	氏　名	備考
1	国見町消防団	団　長	鈴木　耕治	
2	〃	副団長	佐藤　　誠	
3	国見町町内会長連絡協議会（自主防災会）	会　長	阿部　初男	
4	〃	副会長	佐藤　清二	
5	国見町婦人会連絡協議会	会　長	安田　節子	
6	国見町民生児童委員協議会	会　長	八巻　忠一	
7	国見町土木建設業協会	会　長	佐久間友一	
8	国見町社会福祉協議会	事務局長	玉木　仁彦	
9	伊達地方消防組合中央消防署西分署	分署長	齋藤　次夫	
10	福島北警察署桑折分庁舎地域課	係　長	佐藤　晴彦	
11	福島県県民健康管理課	主　幹	小谷　尚克	
12	福島県県北地方振興局県民生活課	主任主査	佐々木利宏	
13	福島県県北流域下水道建設事務所	主任主査	瀧本　達也	
14	国土交通省福島河川国道事務所防災課	課　長	齋藤　清見	
15	東北電力㈱福島営業所総務課	副　長	三浦　浩吉	
16	NTT 東日本㈱福島支店	副支店長	岸本　文明	
17	国見町	副町長	佐藤　弘利	

事務局

住民生活課	課　長	吉田　義勝
	住民防災係長	澁谷　康弘
	住民防災係主事	加藤　克洋

「東日本大震災に関する意見募集」集計結果

１．実施目的　東日本大震災の検証を行い、町民の防災意識の高揚と、今後の防災行政に役立てることを目的に　作成する検証結果報告書作成の基礎資料とするため。

２．募集対象　町内に居住されている全ての方。
震災当時町内に住んでいて現在避難されている方。
町内事業所にお勤めの方。

３．募集方法　意見要旨を各世帯１枚ずつ配布。町ホームページ及び回収場所にも用紙を設置
回収方法は役場はじめ町内１３か所に設置した意見募集回収箱に投函してもらうこととした。

４．募集期間　平成２５年７月１日（月）～平成２５年７月３１日（水）

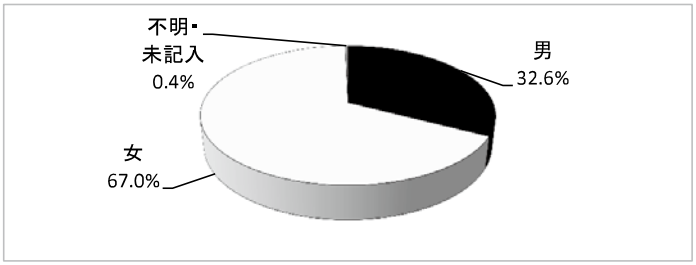
５．提出状況

	意見用紙回収箱設置場所	件数
1	国見町役場（仮庁舎）	１３８件
2	公立藤田総合病院	３７３件
3	国見町商工会	１件
4	福島信用金庫国見支店	１件
5	国見郵便局	２２件
6	伊達みらい農業協同組合国見総合支店	３件
7	伊達みらい農業協同組合小坂支店	４件
8	伊達みらい農業協同組合森江野支店	０件
9	伊達みらい農業協同組合大木戸支店	２件
10	伊達みらい農業協同組合大枝支店	１件
11	サンクス福島国見店	４件
12	サンクス福島国見上野台店	４件
13	セブンイレブン福島国見役場店	８件
14	電子メール	０件
	計	５６１件

Ｑ１　あなた自身のことについてお尋ねします。

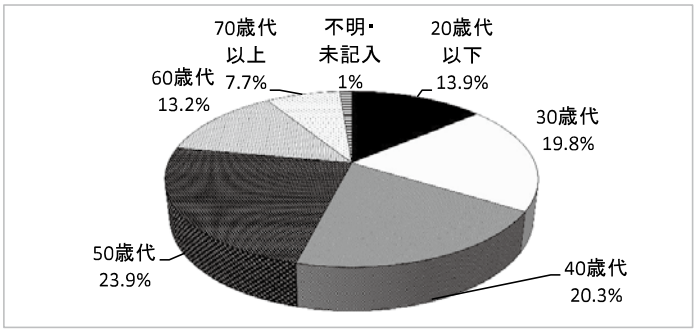
Ｑ１－①　あなたの性別は？

性別	人数	割合
1．男	183	32.6%
2．女	376	67.0%
不明・未記入	2	0.4%



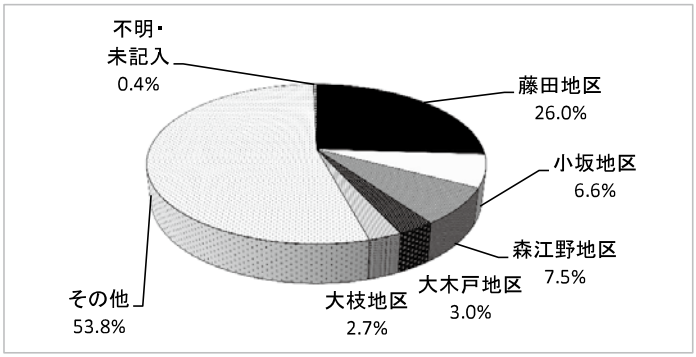
Ｑ１－②　あなたの年齢は？（年代別で集計）

年代	人数	割合
20歳代以下	78	13.9%
30歳代	111	19.8%
40歳代	114	20.3%
50歳代	134	23.9%
60歳代	74	13.2%
70歳代以上	43	7.7%
不明・未記入	7	1.2%



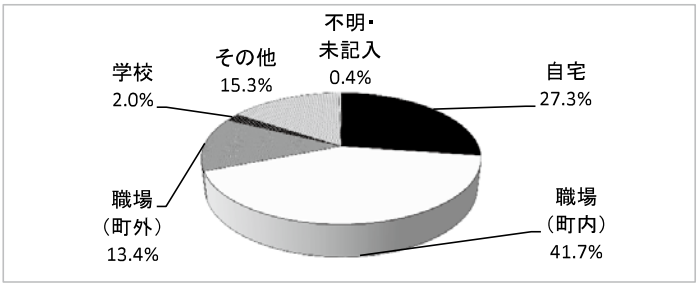
Ｑ1-③　あなたのお住まいの地区は？

地区名	人数	割合
1．藤田地区	146	26.0%
2．小坂地区	37	6.6%
3．森江野地区	42	7.5%
4．大木戸地区	17	3.0%
5．大枝地区	15	2.7%
6．その他	302	53.8%
不明・未記入	2	0.4%



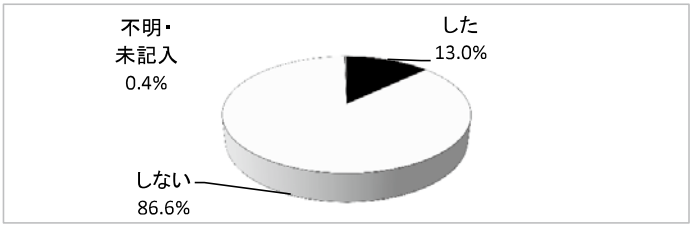
Ｑ２　あなたは震災発生当時、どこにいましたか？

場所	人数	割合
1．自宅	153	27.3%
2．職場（町内）	234	41.7%
3．職場（町外）	75	13.4%
4．学校	11	2.0%
5．その他	86	15.3%
不明・未記入	2	0.4%



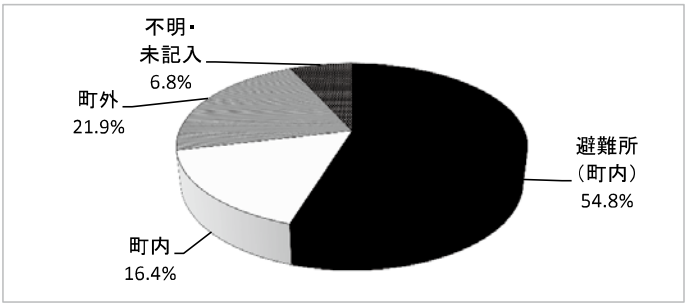
Ｑ３-①　あなたは震災発生直後、どこかへ避難しましたか？（原発事故に起因する避難を除く）

	人数	割合
1．した	73	13.0%
2．しない	486	86.6%
不明・未記入	2	0.4%



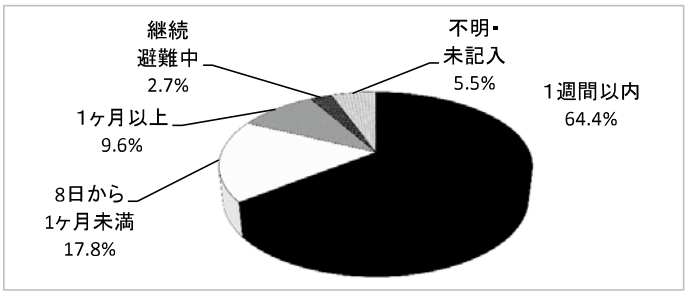
Ｑ３-②　避難した方にお尋ねします。どこへ、どのくらいの期間避難しましたか？（原発事故に起因する避難を除く）

場所	人数	割合
避難所（町内）	40	54.8%
町内	12	16.4%
町外	16	21.9%
不明・未記入	5	6.8%



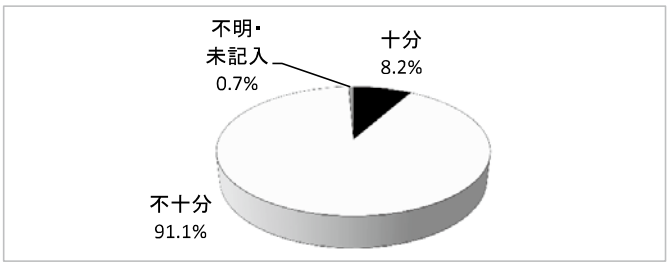
どのくらいの期間避難しましたか？

期間	人数	割合
１週間以内	47	64.4%
8日から1ヶ月未満	13	17.8%
１ヶ月以上	7	9.6%
継続避難中	2	2.7%
不明・未記入	4	5.5%



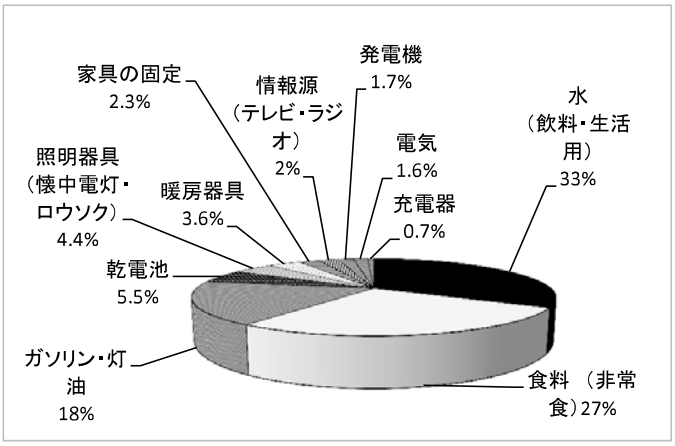
Ｑ４-①　あなたの地震に対する備えは十分でしたか？

	人数	割合
1.　十分	46	8.2%
2.　不十分	511	91.1%
不明・未記入	4	0.7%



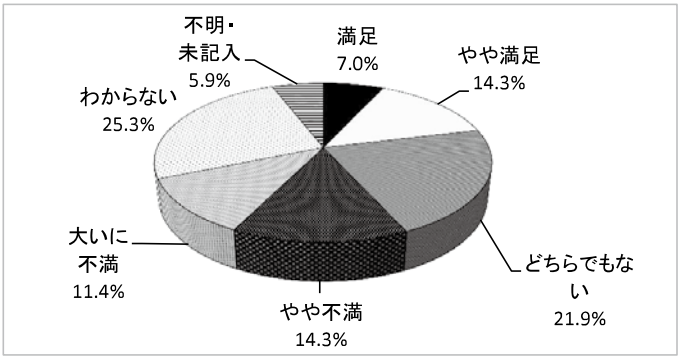
Ｑ４－②　不十分とお答えの方へお尋ねします。どんなものが足りなかったですか？
あればよかった、準備しておけばよかったと思われるものを、3つ上げてください。

不足物資	件数	割合
水　（飲料・生活用）	392	32.9%
食料（非常食）	323	27.1%
ガソリン・灯油	216	18.1%
乾電池	66	5.5%
照明器具（懐中電灯・ロウソク）	53	4.4%
暖房器具	43	3.6%
家具の固定	27	2.3%
情報源（テレビ・ラジオ）	26	2.2%
発電機	20	1.7%
電気	19	1.6%
充電器	8	0.7%



Ｑ５　町や災害対策本部の対応はどうでしたか？またその理由を記入してください。

	人数	割合
1．満足	39	7.0%
2．やや満足	80	14.3%
3．どちらでもない	123	21.9%
4．やや不満	80	14.3%
5．大いに不満	64	11.4%
6．わからない	142	25.3%
不明・未記入	33	5.9%



Ｑ５（理由記入欄）について

＊評価いただいたのは５２８件。理由をお書きいただいたのは３２３件（評価はいただけないが、理由をお書きいただいた方を３件含む。）で、分類別に記載しました。

＊判読不能文字は○○で記載し、各々の意見には記入者の（年齢・性別）を付記しています。

（１）　満足

1．給水対応、避難対策。適切であった。　（７１歳男性）
2．水や食料、寝る所を提供していただき感謝しています。　（６７歳女性）
3．被災者でもある町職員の対応は、立派だった。　（６４歳男性）
4．よくやれたと思う。　（５２歳男性）
5．水、ご飯、その他（電気・暖房）、部落長さんの働きで十分でした。　（６３歳女性）
6．婦人会の方々、町職員の方々の対応に涙が出ました。　（７２歳女性）
7．役場損壊の中、よく頑張って下さったと思い感謝しています。　（５１歳女性）
8．夢中でしたので、不満とか思わなかったし、最大限のことは対応してくださったと思う。　（６８歳女性）
9．あの状態で精一杯やってもらったと思う。　（３６歳女性）
10．速やかに対応していたと思うため。　（３８歳女性）
11．良くやっていたと思う。　（６８歳女性）
12．迅速に公民館等に避難誘導を指示。　（６４歳男性）
13．町職員の対応に満足した。　（４６歳男性）
14．自分の件（生活）もあったろうに、町民の為に良くしてくれました！　（６４歳男性）
15．飲料水、おにぎり等を　（５７歳女性）
16．電話で問い合わせしたが、適切な対応だった。　（６７歳女性）
17．乳児を連れての避難でしたが、配慮して頂いて、体育館からセンター内和室に泊めて頂いた。（４０歳女性）
18．役場が崩壊し防災設備も使用できない中での対応は、良かった方である。　（６４歳男性）
19．朝早く夜は遅くまで、給水したり、小さな子供が待っていても帰れない状況で、職員の方々は大変だったと思います。（６６歳女性）
20．避難直後からの炊き出しや給水など、大変有難かったです。　（７２歳男性）
21．積極的に動いてくれたと思います！　（１５歳女性）
22．限られた中でのそれぞれの努力。　（４３歳男性）
23．とても親切にしてもらった。　（３９歳女性）
24．初めての避難生活、役場の対応も努力していました。　（５１歳女性）
25．職場で訓練していたので、対策本部がすぐ立ち上がれた。　（４１歳女性）
26．自分達の状況が分からず、情報が欲しかった。　（４７歳女性）
27．（←居住地の対応回答です）。避難や食事、水などの声かけや用意をしていただいた。　（４６歳女性）
28．生活が出来た。　（４３歳女性）
29．何も特にしてくれた訳ではない。　（４１歳女性）
30．緊急事態にも関わらず、一生懸命対応されておりました。　（５１歳女性）
31．民生委員さんを中心に、一人暮らし高齢世帯の人を助けていただきました。福祉課の皆さんの動きもすばらしかったです。不眠不休で又、家族を二の次に対応してくださっていたと思います。本当にお疲れ様でした。（４８歳女性）

（２）　やや満足

1. 防災無線受信の件　（７５歳男性）
2. 自分の家の事より地区の避難者を優先してくれた。　（４０歳女性）
3. 備蓄品が準備されていた。飲料水供給体制には、大いに不満。　（６１歳男性）
4. 公民館での炊き出しはとても助かりました。　（６６歳女性）
5. ボランティアの方に良く対応して頂いた。　（７８歳男性）
6. 在宅家族だったので、米と食料（おにぎり）を並んでやっと確保しました。　（７０歳女性）
7. 情報不足。　（４９歳男性）
8. 日中の地震だったのに、日没までの動きが見えなかった。　（３７歳男性）
9. 一生懸命やってもらったと思う。　（７７歳女性）
10. 良くやっていただいたと思う。　（２１歳女性）
11. 素早い対応だったと思う。　（４２歳女性）
12. とても助かった。　（６９歳男性）
13. センター内に避難した際、水やカンパンを配布されて、とても助かった。しかし、後から周りに聞くと、センター内に入れず、駐車場で休んでいる人達には何もなかったとか。建物の周囲を見廻る等あれば良かったのかなと思う。その後は定期的な水や食料の配布がありがたかったです。　（３３歳女性）
14. 町職員、各団体の方々が毎日頑張って働いていた。　（６０歳女性）
15. おにぎりの配布や、飲水の配給等。　（７０歳女性）
16. きちんと対応してくれた。　（３０歳男性）
17. 水道車があった事。　（５５歳女性）
18. 飲料水　（６６歳男性）
19. 情報○○　（７７歳男性）
20. あの大地震であり、広範囲への被害であったので、町ばかりでは対応しきれないこともあったと思われるため。（５５歳女性）
21. 自分の家で過ごしたのですが、みんな食料を買うのに大変でした。　（６６歳女性）
22. 町庁舎が被災したが、対応は早かった。　（８３歳男性）
23. 水の供給が速やかだったと思うから。　（７８歳女性）
24. 断水の水の給水対応が比較的早く行っていたと思います。　（５３歳男性）
25. 電話等通信手段がSTOPしたので、自分で情報確保に努めた。混乱していた中で、対策本部の設置は早かったと思います。　（６６歳男性）
26. 避難所や給水の対応は助かった方も多いと思う。　（２７歳女性）
27. 対策の進みがちょっと遅い。　（６３歳女性）
28. 未曾有の大震災なのでどうにもならない。　（５０歳男性）
29. 避難場所に食事や水が配られた。　（４４歳女性）
30. 状況に応じた対応がされていた。　（５７歳女性）
31. 石油、ガソリン購入出来た。水の配給があった。　（２０歳女性）
32. 市町村にて物資を貰えたこと。　（３６歳女性）
33. 実家に発電機があったので、特に不自由はなかった。　（３５歳女性）
34. 水の貰える場所の連絡が遅かった。　（３６歳女性）
35. 情報が少なく、不安な生活を送った。　（５０歳女性）
36. パンを支給してもらった。　（４２歳女性）
37. 食料などの援助が少なかった。　（２３歳男性）
38. 防災無線は役に立った。水は不足していた。　（５１歳女性）
39. 毎週、状況を新聞で配られたから。　（３８歳女性）
40. 病院なのに患者さんに使用する絶対的水不足。　（５８歳女性）
41. 水の配給も頻回にあり、助かりました。　（２５歳女性）
42. 情報がきちんと伝わるようにしてほしい。　（３８歳女性）
43. 皆さんそれぞれに頑張っていたと思います。　（５６歳女性）
44. 正確な情報。　（５８歳女性）
45. 役場も多大な被害を出した中で、皆苦労したと思う。個人の欲を言えばきりがない。　（７４歳男性）
46. 防災ラジオが機能したと思う。　（６５歳女性）

47. 電気と水が止まって、時間がかかった。　（４０歳男性）
48. 対応が遅い。　（３８歳男性）

（３）　どちらでもない。

1. 必要な情報をどのように得ればいいのか分からなかった。　（４８歳女性）
2. 仕方が無いと思う。全員が自分又は妻などが心配。　（６７歳男性）
3. 防災対策本部の存在が不明。　（６４歳女性）
4. 情報が取れなかった。　（６２歳男性）
5. 災害対策本部の放送、それほど役立つと感じなかった。　（３６歳女性）
6. 避難もしないし、被害も少なかったから。　（７４歳女性）
7. 家のことで余裕がなかった。町で何をしてくれるかわからなかった。　（５２歳女性）
8. 頑張ってくれたとは思う。　（５２歳女性）
9. 特に大きな被害を受けなかったため、思い当たらない。　（５４歳女性）
10. こんな大きな災害は初めてだったし、今回の経験を今後にいかせばよい。　（４３歳女性）
11. 給水してもらえたが、食料不足。　（４５歳男性）
12. 避難の放送が入ったことは良かった。避難所に人が溢れてしまった時、トイレの水が流れなくなったので、その時の対応をみんなに知らせて欲しかった。　（２５歳女性）
13. 水が不足していた。　（２９歳女性）
14. 特に著しい困難と感じなかった。皆の生活も同じと思っていた。　（４８歳女性）
15. 何とか水とかその他のもの（食品）は、都合をつけて自分たちで確保した。　（６０歳女性）
16. 予想外の大震災であり、皆混乱していたため。自分自身、認識が甘く、備えをしていなかったため、何とも言えない。（３３歳女性）
17. 特に自宅の被害は少なかったので、生活するには問題なかった。　（５１歳女性）
18. ラジオでの情報が助かりました。　（２２歳女性）
19. 何が町の対応だったのかがわからない。　（２９歳女性）
20. 水や食品は早めに供給されたが、ガソリンの確保が難しかった。　（４１歳女性）
21. 的確だと思いました。　（５０歳女性）
22. 利用しなかったため。　（４１歳女性）
23. 何が行われているのか情報が来ない。　（２１歳女性）
24. 皆が情報不足で、思うように動きが取れなかった。仕方ないと思う。　（５７歳男性）
25. 地域によって、電気や水の復旧の早さの違いには不満があるが、水の供給などは早かったと感じたから。（２２歳女性）
26. 混乱していたため。　（３３歳女性）
27. 対応までが遅い。　（３４歳女性）
28. 全員同じく大変だったので、どちらともいえない。　（４１歳女性）
29. ほとんど携わっていないため。　（５０歳女性）
30. 道路が地割れしており、学校も壊れていたのに、登校だったのがよく分からなかった。　（２１歳女性）
31. どんな対応だったか具体的に不明。　（３０歳女性）
32. 会津在住で被害が少なかった為。　（３７歳男性）
33. どんな対応したか知らない。　（２９歳男性）
34. 必要な情報が下りるのが遅い。　（２５歳男性）
35. 自分自身はあまり恩恵を受けていない。　（３３歳男性）
36. 特に不満はない。　（５１歳男性）
37. よくわからなかった。　（４８歳女性）
38. 夢中でわからなかった。（３１歳女性）
39. 病院内では電気も水もあり、家ほどの不自由がなかった。　（５２歳女性）
40. 家族が通勤する際、どこの橋が安全なのか、わからなかった。　（５９歳女性）
41. 支給も遅く、十分ではなかったような気がする。しかし、あったことで少しは日常生活に対応できた。（２４歳女性）
42. 出来る範囲内で皆頑張ったと思う。　（７６歳男性）
43. あまり関わらなかった。　（２１歳女性）
44. 連携が取れ、対応は良かったと思います。　（５６歳女性）

45. 小さな子供がいたので、集会所に行けなかったため、水の配給しか分からなかった。　（４０歳女性）
46. 自宅の被害もあった方もいると思いますが、最善を尽くされたと思います。　（６２歳女性）
47. 初めてのことなので、仕方がないと思う。　（３０歳男性）
48. 避難所に行けば食料の配給のあることが分からなかった。　（５３歳女性）
49. 現状の説明を報道し、寄るところとなってほしかった。　（８１歳女性）

（４）　やや不満

1. 飲む水が一番辛かった。　（７０歳女性）
2. 役場が被害を受けているのが分からなかった為、何をしているのかと思っていました。　（５７歳女性）
3. 私共夫婦は、車が無いのでセンターまで水も頂きに行けません。　（７２歳女性）
4. どのように動いているのかよく見えなかった。情報不足。　（５０歳女性）
5. 誘導に欠けていた。　（６３歳男性）
6. 原発の状況が伝わらなかった。　（６２歳男性）
7. 飲料水の確保（食事用）　（６２歳男性）
8. 情報があまり入らなかった。　（３８歳男性）
9. 子供への配慮が足りなかったのでは。　（３５歳女性）
10. 各町内会への連絡がなかった？　（６９歳男性）
11. 自分は我慢できますが、子供やお年寄りを優先してほしかった。　（２７歳女性）
12. すぐの対応がなかったから。　（１０歳女性）
13. ヨウ素剤を配布してほしかった。　（２９歳女性）
14. 文化センター体育館が避難所とは知らなかった。　（６２歳男性）
15. 給水所が少ない。　（２７歳男性）
16. 情報の伝達が遅かった。　（３９歳男性）
17. 食料があまり配給されなかった。　（５３歳男性）
18. 情報が上手く伝わらない。　（６０歳男性）
19. どのような対応していたのか見えなかった。　（３９歳男性）
20. 何の情報もなかった。　（５８歳男性）
21. 町全体の被害状態の伝達出来て居ない。　（８６歳男性）
22. 災害後、数日間は情報が全く掴めなかった。　（５６歳女性）
23. 広報車での情報が、大きい道路沿いは聞こえていたようだが、細い道沿いの民家までは届かず、水の配給や学校情報が分からなかった。　（３７歳女性）
24. 被災証明や家屋調査など働いているとタイムリーに行かず、遅れても教えてくれない。　（５３歳女性）
25. 状況がよくわからず、どれくらいで復旧するのか不安だった。　（４７歳女性）
26. 水の配給など、対応が遅かった。　（４８歳女性）
27. 何の対応もなかった。　（５２歳女性）
28. 情報が入らず、状況が分からなかった。支給物資があるという情報もわからなかった。　（５０歳女性）
29. 電気、水道の復旧が遅い。　（２１歳女性）
30. 連絡が遅いため不安。　（６４歳女性）
31. 素早い対応。連絡の不備。　（６０歳女性）
32. 状況把握出来なかった。断水の時の給水車の案内等わからなかった。（最初の頃）　（５８歳女性）
33. 何をどのようにしているのかわからなかった。　（３２歳男性）
34. 水、電気等の復旧情報がつかめない。　（６３歳男性）
35. 水道、電気、ガスの復旧と連絡が遅かった。　（３２歳女性）
36. 何も連絡なし。声かけなし。　（４５歳女性）
37. 避難場所が分からなかった。　（６２歳女性）
38. 原発の情報が少ない。　（４７歳女性）
39. 備えるのにも限界があると思います。市町村で対応して欲しい。　（５７歳女性）
40. もっと速やかに対応して欲しかった。情報の伝達等。　（３５歳女性）
41. 対応が遅い。　（２５歳女性）
42. 情報が欲しい。　（４２歳女性）
43. 水道や電気、ガソリンなど生活する上で必要なものが確保できず困った。　（２５歳女性）
44. 水が中々手に入らなかった。　（４２歳女性）

45. 同じ町内でも、電気の復旧が早く回復している所とそうでない所があった。　（２６歳女性）
46. 現状が分からなかった。　（２５歳女性）
47. 連絡網が十分でなく、情報不足あり。　（４０歳男性）
48. 連絡がとれない。　（３８歳女性）
49. 食料が不足で、店でも買えない状態だったので、各家庭に保存食を配布してほしい。　（６２歳女性）
50. 情報が伝わらない。　（５９歳男性）
51. 断水期間が長かった。　（４０歳女性）
52. 連絡が取れず、町の対応が無かった。　（５９歳女性）
53. 直後は良かったかもしれないが、原発事故後の対応が…。　（３０歳女性）
54. 情報がなかった。（少なかった）　（３３歳女性）
55. 対応がよくわからなかった。　（２７歳男性）
56. 情報が少ない。　（３０歳女性）
57. 町役場の対応は不十分であった。　（７５歳男性）
58. 現状が分からず広報があまりなかった。　（５５歳女性）
59. 行政の動きが分かりにくかった。　（４９歳男性）
60. 情報が伝わらなかった。　（４９歳女性）
61. 情報が来ない。　（５２歳男性）
62. 病院外の情報の入手が中々困難なことがあった。　（５２歳女性）
63. 何も指示がなかった。　（４５歳女性）
64. 例：給水の連絡手段改善。巡回広報の内容を、今後このようにしていくなどの広報をして欲しかった。（５８歳男性）
65. 避難者が大勢で水も出なかったので、トレイが汚れて入れなくて困った。　（７７歳男性）

（5）大いに不満

1. 寒くても毛布など薄く、2人で1枚では眠れなかった。早く避難した人たちは良かったそうです。　(70歳女性)
2. 郡部には救援の手が伸びなかった。(止むを得なかった)　(64歳男性)
3. 毛布が足りない。体育館内にはストーブがなし。職員はストーブで暖かくしていた。体調が悪い人への保健師の対応が酷かった(女性の保健師)。　(58歳男性)
4. 連絡なし。避難に何の対応もされなかった。　(62歳女性)
5. 家庭同様、給水等が不十分だったと思う。　(63歳男性)
6. 対応が遅い。(36歳女性)
7. 混乱して情報が届かず、何がどうなっているのか全然わからなかった。　(34歳女性)
8. 情報が届かなかった。　(34歳男性)
9. 桑折町は支援物資を町民に配給したそうです。当町は職員の為の支援物資であったのか、リーダーシップを取る人はどこにいるのか、支援物資は最後はご自由にお飲み下さいと実習室等にあったとか。社協の動きも見えませんでした。　(57歳女性)
10. どんな動きをしているのか、私には何も分からなかったため。(31歳女性)
11. 立上げが遅かった。災害に対する認識不足。職員の怠慢。(72歳男性)
12. 避難所でのいじめ、いやがらせ。日頃からの嫉妬から絶対絶対許せない。稀に見る部落です。(72歳女性)
13. 発生から数日間広報が全くなかった(重要期間)。(68歳男性)
14. 避難場所である観月台文化センターに行ったが、入れないと言われ追い返された事。(57歳男性)
15. 災害情報や避難に関する情報が全くなく、不安であった。(48歳男性)
16. 情報不足。落ち着いてからかの各種対応も遅い。(41歳男性)
17. ライフラインの復旧対応の遅れ。(53歳男性)
18. 防災無線使えず、飲み水さえどこで貰えるかわからなかった。高齢者なら自分で動けず孤立してしまう。　(57歳男性)
19. 避難して仕事を休んだらクビと言われた。(年齢・性別不明)
20. 情報が正確に伝わらない。(52歳女性)
21. 原発の情報が遅く、外で過ごすことが多く、不安になった。(48歳女性)
22. 情報が少ない(原発を含め)。(52歳女性)
23. 情報不足。(50歳女性)
24. ヨウ素剤の配布を早くやってほしかった。情報を流してほしい。情報が不足していた。(48歳女性)
25. 対応をしてもらったという事がない。(53歳女性)
26. 情報伝達が遅い。(35歳女性)

27. 広報車は回るが、速すぎて(速度)何を言っているか分からない。情報不足。（37歳男性）
28. 避難誘導の広報車が来たけど、放送が聞き取れない程速かった。その後何もない。（64歳女性）
29. 情報伝達が皆無。TVだけが頼り。（55歳女性）
30. 甲状腺検査等の案内がなかった。(福島では行っているのに…)（23歳女性）
31. 桑折町長はアップルパイを差し入れしてくださった。（50歳男性）
32. 水を配給しても、そこまで貰いに行けない。（54歳女性）
33. 何をやっていたのか伝わらない。（32歳男性）
34. 町がどんなことを支援しているのか全く分からず。（41歳女性）
35. 情報が伝わらない。（57歳女性）
36. 原発事故に対しての情報不足。呼びかけ無し。（39歳女性）
37. 私達はどうしたらよいか分からなかった。（40歳女性）
38. 原発事故に対する対応が不足していた。（39歳女性）
39. 放射能の危険性の報告。情報が少なかった。（31歳女性）
40. 水や燃料の供給が遅い。情報の伝達が遅い。（34歳女性）
41. どういう対応していたか分からなかった。情報不足。（36歳女性）
42. 連絡が無かった。（26歳女性）
43. 何もしてくれないから。（23歳女性）
44. 初めての経験で不安ばかりだった。（40歳女性）
45. 状況説明が無い(伝わらない)。（46歳女性）
46. 福島市の対応が遅い。（58歳女性）
47. 情報提供が全くなかった。支援内容が分からなかった。（40歳女性）
48. ガソリンの手配。災害用品は全く無かった。（57歳男性）
49. 水、電気がなかなか進まなかった。（年齢不明・女性）
50. 何もしていないように見えた。（44歳男性）
51. 自宅で生活していた町民には、何の援助物資もなかった。停電のため、情報が何も伝わってこなかった。特に原発事故の情報に関して。（51歳女性）
52. 体育館に避難している人にだけ、食べ物が配給された。我が家にも20人位の人が何日も泊っていたのに、何も貰えなかった。大変だった。（36歳女性）
53. 被災後、役場に今後の事を尋ねたら、すべて個人で処理する様言われました。物凄くショックでした。その後、ネットで色々調べました。対応が遅いのと、職員の方の不親切には失望しました。（51歳女性）
54. パニック。（36歳男性）
55. 生活に必要不可欠な水の供給対策を何も考えていなかった。過去の災害の認識が全くない行政であった。（66歳男性）
56. 被災者に対して、ボランティアが少しずつきつくなる事。代表者の女性がボランティア者に配慮にかけて来て、周りに不快感を与える。残念です。（60歳女性）
57. 停電になり、情報が一切伝わってこなかったので。（65歳女性）

（６）　わからない

1. 情報が何も入らず、よくわからなかった。　（５３歳女性）
2. 職員皆等しく被災者であり、多くを望めない。　（８１歳男性）
3. 役場の方の活動状況を見なかったので。
4. ライフラインの復旧が遅かった感がする。　（４５歳男性）
5. 仕事中の為帰宅できず（３日間）、家の事は主人・子供に任せた為。　（７０歳女性）
6. 私の住んでいる自治体と比べて、非常に手厚い対応はされてたと感じます。　（４０歳男性）
7. 急な出来事。その場で判断できる気○、○の考。　（７０歳男性）
8. 比較する事例を知らない。　（７３歳男性）
9. 利用してない。　（６７歳女性）
10. あまり関わってないから。　（３３歳男性）
11. 町外に住んでいて、国見の状況を知る機会が乏しかったため。　（２３歳男性）
12. 関わりがなかった。　（２５歳男性）
13. 利用しなかったから。（４５歳女性）
14. 実家はラジオが入らない。情報が入ってこなかった。　（３０歳男性）
15. 対応がなかった。　（４５歳男性）

16. 情報が入ってこなかった。　（２９歳女性）
17. 直接何か対応してもらったわけではないので。　（２８歳女性）
18. 町内に住んでいないため、町の対応が分からない。　（５９歳男性）
19. 情報がなかったこと。ガソリン不足。　（３８歳女性）
20. 職場にいたので良くわからない。町や災害対策本部の情報が伝わらない。　（６２歳女性）
21. 仕事場だけで、住んでいないため。　（５５歳女性）
22. よく覚えていないが、インフラの復旧に時間がかかった感じがした。　（４５歳男性）
23. どんな対応をしていたのかわからない。　（２４歳女性）
24. 仕事していた。　（２４歳男性）
25. 国見の住民でないため、わからない。　（４４歳女性）
26. 利用しなかった。　（５２歳女性）
27. 国見町在住ではないため良くわからなかった。　（３０歳女性）
28. 直接の対応がなかったので、わからず。　（４５歳女性）
29. 緊急時の対応は、当事者たちにはわからない。上手く伝わっていない。　（３２歳女性）
30. 必死だったので、あまり覚えていない。　（４１歳女性）
31. 何も対応を受けて居ない。　（３０歳女性）
32. 通勤など自分の生活が精一杯で覚えていない。　（５４歳女性）
33. 忘れた。　（５６歳男性）
34. 実際に関わりがなかった。　（３６歳男性）
35. 千葉県市川市内に居住していた。　（５９歳男性）
36. 特にお世話になることはなかったので。　（５７歳女性）
37. 情報伝達が遅い。　（５２歳女性）
38. 自分の事が精一杯で、はっきりしない。　（５７歳女性）
39. このような大地震は誰にも想定出来るものではないと思ったから。　（５１歳女性）
40. 目に見えなかった。　（３７歳女性）
41. 国見町にはいなかったため分からなかった。　（２８歳女性）
42. 本当は不満ですが、情報が何も分からなかった。　（５３歳女性）
43. どこがどう動き支援してくれるのか、分からなかったから。　（４３歳女性）
44. 家を離れていたのでわからない。　（４６歳女性）
45. 国見町役場の対応…不明。　（５０歳女性）
46. 情報不足で、どこで何が行われているか、起こっているかわからなかったため。　（２３歳女性）
47. 家と職場の事が精一杯で覚えていない。　（２５歳女性）
48. 対応があったのかどうかわからない。　（５８歳女性）
49. 他県にいた為。　（５１歳女性）
50. 情報が伝わってこない。　（４０歳女性）
51. 国見町民でない。　（４０歳男性）
52. あんまり（ほとんど）関わりがなかったため。　（４１歳女性）
53. 町からの援助については知らない。　（５５歳男性）
54. 本部の対応がよくわからないので。　（４１歳女性）
55. 対応していたのかわからない。　（４３歳女性）
56. どういう活動をしていたのかわからない。　（４９歳女性）
57. 職場内にいたため、外の対応。　（５５歳女性）
58. 状況が把握できなかった。　（４３歳女性）
59. 覚えていない。　（３６歳女性）
60. みんな大変だったから。　（３５歳女性）
61. 仕事に来ていた日が多かったから。　（４４歳女性）
62. 町民じゃないので分かりません。　（３６歳女性）
63. 自分の事、職場の事でいっぱいだった。　（５５歳女性）
64. 自宅が隣町なので、よく把握しておらず、分かりません。　（４９歳女性）
65. 無我夢中だったので、あまり覚えていません。　（２５歳女性）
66. 実体がわからなかった。　（５７歳女性）

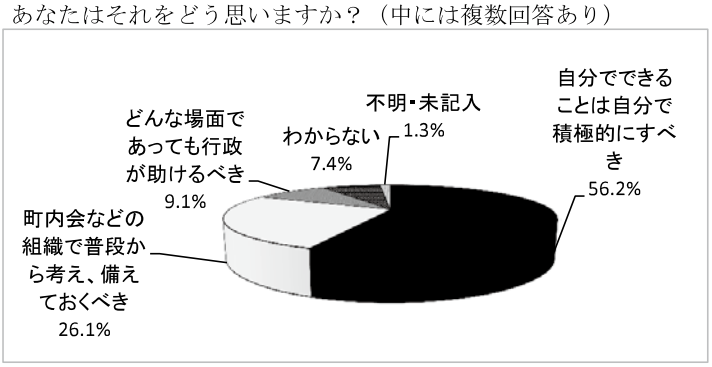
67. 災害時はみんな同じだから。　（年齢不明・女性）
68. 何をしたのかわからない。　（３７歳女性）
69. 特になにもされなかった。　（４０歳男性）
70. 国見町（震災当時）に居住していたわけではないので。　（６２歳女性）

（７）　評価はいただけないが、理由をお書きいただいた方。

1. 対応は？と問われると判断しかねるが、水の為、何回か並んだ。センターまで行ったので遠かった。（６２歳女性）
2. 対策移動本部のような、訪問対応があっても良かったのでは…。　（５３歳女性）
3. 避難者以外の人に食料の配布が遅かった。　（７７歳男性）

Ｑ６　「自助・共助・公助」が叫ばれていますが、あなたはそれをどう思いますか？（中には複数回答あり）

	件数	割合
1. 自分でできることは自分で積極的にすべき	351	56.2%
2. 町内会などの組織で普段から考え、備えておくべき	163	26.1%
3. どんな場面であっても行政が助けるべき	57	9.1%
4. わからない	46	7.4%
不明・未記入	8	1.3%



Ｑ７　「減災」のために必要なことは、どんなことだと思いますか？

＊ご記入いただいたのは、３８５件でした。

＊判別不能文字は○○で表記し、各々の意見には記入者の（年齢・性別）を付記しています。

1. 日頃からまず何をしたら良いのかを、家族で話し合う時間を持つ事。　（５３歳女性）
2. 今回の災害を風化させないよう、イベントなどを通じて災害について考える機会を持つことなど。（４８歳女性）
3. 町内会で普段から考えておくべきだと思います。　（７０歳女性）
4. 水道の断水を極力避ける方策！！　（８１歳男性）
5. 放送を良く聞く。早めの避難（外に出る）。通路に障害物となるものを置かない。　（８２歳男性）
6. 防災無線を町内各戸に配布したことは良かったが、実際の震災時に活用出来なかったことは残念である。災害時に一番重要なのは情報伝達と考えられるので、住民に不安を与えず、安心できる情報提供を要望します。（７１歳男性）
7. ガスの元栓を締める。　（７５歳男性）
8・常に災害の備えを考えておく。そのようなことを行政が点検する。（ex.火災報告器が付けてあるか、耐震装置に問題はないのかetc…）避難訓練などを時々実施する。　（６７歳女性）
9. 他人に迷惑をかけない。　（６４歳男性）
10.災害のシミュレーションがもっと必要。　（５２歳男性）
11. 安全な場所に避難すること。　（７０歳女性）
12. Ｑ６の自助・共助・公助により、日頃から最低限の準備が必要。備蓄については、適量は分からないが、数日分は必要。要援護者リストは関係者で共有が必要。　（６１歳男性）
13. 情報が大切である。国見町独自のきめ細かいもの。不正確な情報、遅い情報はいらない。　（６５歳男性）
14. １．防災訓練。 ２．町内会、班内でのコミュニケーション。町から密に連絡を取る。 ３．国見町防災行政無線の活用。　（５７歳女性）
15. 避難場所の確保と、必需品の確保など。　（５０歳男性）
16. 常に準備、注意をしていること。　（７７歳女性）
17. ″自分の身体は自分で守る″が基本。　（６３歳女性）
18. 常日頃、家の内外を片付けて住み良くしておく。　（７２歳女性）
19. この度の震災の恐怖心を忘れないことかなー。後世まで語り継ぐ。　（６２歳女性）
20. 難しい。金があれば耐震対策も立てられるけど、金が無い。年金生活者は介護保険が上がり、消費税も上がり。何かを切り詰めないと生きていけない。　（６７歳男性）

21．本棚やタンスなど身の回りにあるものの倒壊防止の確認。　（４５歳男性）
22．危険箇所の点検→家屋、地域、危険場所確認。ガス、電気、水→使用不可時の代替え物品確保。食料→保存食の勉強。（５１歳女性）
23．現在は自宅に居るため、家族との会話。（特に守るべきものについて）　（７０歳女性）
24．日常の防災意識を高める事。　（４０歳男性）
25．自分のことばかり考えがちですが、全体のことを考えて、一番いい方法はと考え、行動する。（６８歳女性）
26．行政任せではなく、町内会や自分で出来ることは積極的に動き、その上並行して行政に助けを求める。（７２歳女性）
27．近隣の支え合う共助の心の育成。（地域・町内会単位）　（７８歳男性）
28．日頃の備え。　（６４歳女性）
29．本気の防災、減災の繰り返し訓練の実施。　（７０歳男性）
30．日頃の訓練　（７０歳女性）
31．いみが？その時はスピーディにお願いします。　（７０歳女性）
32．常に行う防災訓練の参加。　（６４歳男性）
33．地域にて防災訓練。　（５９歳女性）
34．住民がいつでも和となり協力すること。　（７０歳男性）
35．災害発生のおそれを予測して、出来ることをやっておく。　（５３歳男性）
36．何かあった時の前の準備。　（４９歳男性）
37．日頃の備えが第一。町内会、近所の人たちと日頃からコミュニケーションを取っておくこと。（５０歳女性）
38．コミュニケーションの充実。地域の大切さ！！　（６３歳男性）
39．３．１１を経験し、自分の家に何が足りなかったのかがわかったので、その対策を今後共、継続して行っていく事だと思う。防災の意識が薄れていかないよう、防災無線を活用し、３．１１の日はもちろん、年に数回、注意喚起の放送を流して欲しいと思います。　（５６歳女性）
40．防災訓練を徹底して行うこと。何回もした方が良いと思う。　（５８歳男性）
41．自分だけの幸せを考える人が多い。お互いに、幸せを助け合う事を教えることと悟る事が大切。勝手な自分よがりは足手まといになるよ！　（７０歳男性）
42．平素の心掛けと準備。　（７３歳男性）
43．日頃からの備え。　（４０歳男性）
44．心構え。　（３７歳男性）
45．各家庭での災害時の備え。　町内会、隣近所での災害時の対応。声かけなど。　（２９歳男性）
46．まずは、各家庭で常に災害に対して備えたり、連絡の確認をしたりしておく。それから隣近所で助け合い、それから行政だと思う。　（５９歳女性）
47．堤防の補強。　（３４歳女性）
48．家具などの転倒防止。　（３２歳女性）
49．若い世代に語り継ぐこと。　（３６歳女性）
50．災害時にどのような行動を取ればいいか、訓練をして心構えを持っていることが必要。　（２７歳男性）
51．自分で物品を揃えておくことだけでなく、近所の人（町内会etc…）とも共通認識を持って備えておくことが必要。（３８歳女性）
52．防災訓練があれば。　（７４歳男性）
53．日常からの対策を図ること。　（４２歳女性）
54．日頃の備え。絶対大丈夫は無い。　（６４歳男性）
55．自分の身は自分で守る意識で予防措置を講ずる。　（６６歳男性）
56．家の中の家具等への対策（留め金具）　（６２歳男性）
57．普通より、予測と訓練をし、対応策を整えておくこと。　（６２歳男性）
58．家具などの転倒防止。日頃の備え。　（６７歳女性）
59．普段から、防災グッズなどを利用する。備蓄しておく。　（３３歳男性）
60．″何かをやってくれる″という気持ちではなく、″何とかしよう″、～から始めよう、という気持ちが必要。最低限度以上の補助、行政の力のもと、それを元に最大限の対策にする。　（２３歳男性）
61．自分の出来ることは自分で積極的にするのが基本だと思いますが、最終的には行政の公的援助が頼りです。普段の生活で、危ないと思った場所や物は放置せず、何らかの対処をする。ご近所との連絡を密にする。（３３歳女性）
62．何が起こっても不思議でないので、常に危機感を持っておく心構え。　（３８歳男性）
63．常に備えること。　（４６歳男性）
64．可能な限りの事前情報の共有。　（５８歳女性）

65. 公私共に危険を感じたことは早めに修繕する。　（６０歳女性）
66. 常に周りを良く見ておくように。　（６４歳男性）
67. 災害時の対応について訓練も必要だが、頭脳トレーニングをしておき、とっさの際行動が出来る心構え。（６７歳男性）
68. 家がなくなることが一番困るので、補強に要する費用を助成する。　（６３歳男性）
69. 普段からの備え。　（４３歳男性）
70. 自分で日頃から、災害に備えることが必要だ。　（５７歳女性）
71. 倒れそうな家具の固定。　（３６歳女性）
72. 家具、古い電化製品、衣類、昔からのふとん類等、不要な物は出来るだけ処分し身軽になる。（６７歳女性）
73. これまでの被災者の体験を可能な限り共有し、災害時に各々臨機応変に対応出来るようにする。（３５歳男性）
74. 人的災害を少なくするため、各班及び町内会の連絡体制。　（６９歳男性）
75. 常に意識しておく。　（６２歳男性）
76. 備蓄出来るものは、できるだけしておく。　（２５歳男性）
77. 日頃から心得ておく。　（３０歳男性）
78. 備えを常にしておく。　（４５歳女性）
79. 地域で、避難場所を確認しておくべき。　（１０歳女性）
80. 日頃からの訓練や、アドバイスの活用。　（３４歳女性）
81. 「自助・共助・公助」を基本に、町内会・行政とコミュニケーションを日頃より保ち、避難訓練等を実施していく。全戸町内会に入るべき。　（５７歳女性）
82. 情報の共有（町内だけでなく近隣や県、国としての一貫したもの）　（３１歳女性）
83. 家具の転倒防止。　（５５歳女性）
84. 町内会寝たきり老人の救護体制。　（６６歳男性）
85. 自宅に水や食料等、備えを準備しておくこと。役場では緊急災害に備えて、連絡や物資が行き届くよう今回の反省を踏まえて準備すべき。　（３６歳女性）
86. 近所で助け合い、自分で出来ることは自分でする。　（３９歳女性）
87. 防災マップに類焼の恐れがある個所をチェックして、火災類焼マップを作成してほしい。　（７２歳男性）
88. 家具等の転倒防止。　（７４歳女性）
89. 被害を最小限にするには、顔の見える範囲での助け合いが必要であることを考えると、町内会単位（班単位）でミニ防災訓練を行い、いざというときのことについて話し合うことが必要だと思います。　（３８歳男性）
90. 正確な地震後の情報（原発事故含め）がなかったので、無線やメールなどの活用をしてほしい。（４０歳女性）
91. 色々なケースを想定した事前準備と心構え。　（２９歳女性）
92. 正確な情報の発信と伝達。5W1Hのある情報。　（３０歳男性）
93. この時とばかりにいじめや嫌がらせをする部落長は最低です。自分に経済力がないと人を陥れるようなことばかりするのはだめ。国民年金は自分ばかりでないのですから。　（７２歳女性）
94. 起こり得る災害について家族で話し合い、身の回りの実態をよく掴んでおくこと。　（７７歳女性）
95. 普段からの準備、対応の想定、隣近所との日常の声掛け合い。　（５５歳女性）
96. 情報伝達の迅速化。防災組織の強化。　（６４歳男性）
97. 情報を正しく早く伝える。防災組織の強化。思いやりの心。　（６６歳女性）
98. 日頃、災害に備えて、それぞれの立場で準備しておくこと。　（２６歳女性）
99. 各個人の情報の収集、共有。　（２７歳男性）
100. 自分のことは、自分で守るようにしないと、皆が大変なので、あまり人に頼らないように心がけています。（６６歳女性）
101. 公的機関の正しい情勢判断による的確な情報の発信による地域の共助と共に自助により最小限にとどめる。（８３歳男性）
102. 日頃から必要な水、食料品など備えておく心掛けをする。　（７８歳女性）
103. 日頃から意識づけをしておく。　（５３歳男性）
104. 必要最低限の生活日用品は備えることが必要。　（５３歳女性）
105. 住宅の耐震工事（屋根を鉄板に変更。床下・屋根裏を金属にて補強済み）。食料品、水、常備薬の備蓄。（６２歳男性）
106. 日頃の備え。心構え　（４１歳女性）
107. 身近な人同士の声掛け。　（２２歳女性）
108. 被害を小さくする。　（５３歳男性）
109. 現在の自主防災組織を充実しながら、各個人が意識を高め、日頃から災害に対し準備をしておくなど自助共助の精神を養う。　（６８歳男性）

110．住宅内外、危険な場所から離れる。共助の推進。住宅の耐震、補強。自然災害はいつ、どこ程度か解からず、難しい。　（６６歳男性）
111．「想定外」をなくすため、あらゆるパターンを想定し、備えておく。　（７２歳男性）
112．災害時に必要なとなりそうな燃料、日用生活用品、水を備える必要があると考える。　（８２歳男性）
113．日頃から家族、地域で、災害が起きた時のことについて話をしておくこと。防災訓練など。　（３７歳女性）
114．最小限、自分の出来る備えをすることと、ご近所とのお付き合いも大切。　（２７歳女性）
115．常日頃、身の回りに気をつけている。　（６０歳女性）
116．耐震構造。　（８０歳女性）
117．確かな情報を素早く入手し、地域の人がリーダーの指示により、統制のとれた行動をするように訓練しておく。　（３９歳男性）
118．自助・共助・公助が大切かと思う。具体的（避難食やティッシュ・トイレットペーパーの用意、水の用意をしておくこと。高い場所の物が落ちてこないように予防しておくこと。老人を一人にしないように心掛けることなど…。）に、出来ることを町から案内してもらえれば、それをより多くの人が実行できるのでは…。（２７歳女性）
119．ちょっとわからないです。　（１５歳女性）
120．家の中の危険なもの（タンス・テレビ）などの倒壊に対する備え。　（５３歳男性）
121．避難場所の確保。飲料水・食料・毛布などの備蓄。　（５７歳男性）
122．安否確認の情報。いろんな面での情報。　（６０歳男性）
123．震災を想定した準備。　（３８歳男性）
124．インフラの整備。　（６１歳男性）
125．常に防災の意識を持ってもらうようにする。　（３６歳男性）
126．自分自身、災害時の行動を考えておく。　（４８歳男性）
127．自己防衛。　（４５歳男性）
128．万が一の対処も必要であるが、普段の生活基盤を優先。　（４３歳男性）
129．各家庭での災害への備え。震災等、災害時の行動マニュアル等の周知。　（３０歳男性）
130．まず災害について自分で理解し、定期的にどう動けばよいか思い返す必要があると思いました。（２９歳女性）
131．地震で被害に遭った所に建物を建てない。　（３９歳男性）
132．家族で避難する時は、行く場所などを決めておく。①　②　（５８歳女性）
133．避難訓練など普段から災害に対して、意識しておく。非常食や生活する上で必要最低限のものを備えておく。（２８歳女性）
134．建物などの定期的な点検、補修を行っておくことで、倒壊での被害は少なくなるのではないかと思う。（２８歳女性）
135．物的には、いろいろ出来る事はあると思うが、金銭的面での限界。他、その状況下での自分自身の判断等、難しい。（５８歳女性）
136．今起きて居る災害を一刻も早く町民に知らせ、各自に災害の様を知らせ、災害無線を活用すべき事。（８６歳男性）
137．災害時の行動を、多くの人々がマニュアル化出来るかだと思います。　（５３歳男性）
138．想定しうる災害に対して、常日頃から対策、準備、訓練等をしておくこと。　（５９歳男性）
139．みんなの協力が必要。　（６２歳男性）
140．自宅の耐震補強。外回りの危険箇所の改修。水、食料品、燃料等の一週間分の備蓄。　（５７歳男性）
141．公共施設の耐震化。一般住宅の耐震診断。　（３６歳男性）
142．身の回りを考えて、町からの情報を早く知らせてほしい。　（６３歳女性）
143．保障とか免震にするなどのお金を出してくれる。災害対策のためのお金。　（年齢・性別不明）
144．早めの避難。家族間で日頃から備えておくこと。　（５３歳女性）
145．日々の訓練。避難場所の確認。　（５２歳女性）
146．災害は忘れたころにやってくるので、起きるかもしれないと思って各自対応。　（６２歳女性）
147．日頃から消火器やＡＥＤなどの設置場所を確認していること。　（５４歳女性）
148．情報の共有と発信。　（５５歳女性）
149．シミュレーションは必要。　（５２歳女性）
150．予算等、出来る範囲内で考えられる最大の準備をする。　（５０歳男性）
151．日頃の訓練。地域住民とのコミュニケーション、助け合い。　（４３歳女性）
152．想定される被害については、気を抜かず、手を抜かず、具体的な対策、備えをしておくこと。（３５歳男性）
153．日頃から災害に備える（非常食など）。　（４５歳男性）
154．予防と対策。一人一人が常に意識をして生活をする。　（２４歳女性）

155. 備え。　（２４歳男性）
156. 水、食料、燃料の確保。家具、家電の転倒防止ストッパー取付け。火災報知機設置。　（４５歳男性）
157. 今回の東日本大震災のように、いつ災害が起こるか分からないが、いつ災害が起こっても良いように、災害発生時の対応、マニュアルの作成などを行し、把握しておくこと。　（２６歳女性）
158. 普段から訓練をしておく。避難経路の確認や災害発生時の対応について、家族、学校などにおいても確認しておくことが必要だと思う。　（２２歳女性）
159. 自分で出来る事は、積極的に行ってゆき、行政でももう少し努力してほしい。原発等情報の遅れが、被害の拡大になるので、早めの対応を。　（４８歳女性）
160. 災害はいつ起こるかわからないため、常日頃から備えておくことが大切だと、東日本大震災から学びました。（４１歳女性）
161. 災害を意識し、自助すること。　（４４歳女性）
162. 常日頃から、災害時を具体的にイメージすること。そして、備えること。　（５５歳女性）
163. 情報を公開。　（５２歳女性）
164. 情報を早く知らせる。　（５０歳女性）
165. 情報公開。早めに。ライフラインが止まっても、早めに知りたい。　（３９歳女性）
166. 普段から建物など確認をし、避難訓練も行っていくべき。　（２５歳女性）
167. 日頃からの備えが必要。　（５６歳女性）
168. 日頃から家庭でも災害に備えておく。棚など倒れて来ないようにしておくなど。家族で避難場所を決めておく。　（４４歳女性）
169. 自分たちで出来ることは、自分で考えて、備えておくべきだと思いました。　（５９歳女性）
170. 一人一人が普段からの備えをしていくことが大切。　（３７歳女性）
171. 自分の意識を高く持ち、日頃から備えること。　（４８歳女性）
172. 日頃からの備え。　（３３歳女性）
173. 各家庭で災害に対する意識を高め、いつ災害が起きても対応できるよう準備しておくこと。（２９歳女性）
174. 家庭内の家具の配置を考える。近所の人への声掛け、協力。避難経路や避難場所を家庭内で確認しておく。（３０歳女性）
175. 自助・共助・公助がスムーズに平等にいくように、日頃より訓練や周知すること。　（５３歳女性）
176. 想定外時にも対応出来るよう準備、設備を整える。　（２２歳女性）
177. 日頃から災害を想定して備えておき、訓練も頻回に行う。　（４５歳女性）
178. 家族間で常に避難場所や連絡方法について話し合っておく。　（５７歳女性）
179. 家庭で災害に備え、避難場所等を理解しておく。　（４７歳女性）
180. 家具などが倒れないように金具止めをする。　（５１歳女性）
181. 各自の備えと日頃の防災訓練（職場だけでなく地域でも）　（３５歳女性）
182. お互いの助け合い、情報の共有。　（４８歳女性）
183. 棚等倒れて来ない様にしておく。　（２９歳女性）
184. 金具止め。　（５８歳女性）
185. 普段からの訓練や、備蓄などの確保。緊急時の対応を行っていくことが必要と思う。　（４０歳女性）
186. 自助・公助・共助が全て必要。　（５２歳女性）
187. 地域の情報の共有。　（４８歳女性）
188. 各家庭で災害に備えた物資を準備しておく。家具などが倒れない工夫をしていく（地区ごとに避難訓練などもしていく）。　（３２歳女性）
189. 震災を忘れない。　（４１歳女性）
190. 福島全戸に免震設備をして欲しいと思います。又、原発全炉を留めて、ecoな福島にすることが必要。（５３歳女性）
191. 個人個人が災害に備えて物品等準備し、避難時ルートや場所を確認しておく。連絡手段も。　（２０歳女性）
192. 各個人が普段から危機意識をもって、もしもの時を想定して話し合いをしておくこと。　（３９歳女性）
193. 日頃より、災害を想定した訓練が必要である。　（３３歳女性）
194. 常日頃の備えが必要。　（５１歳女性）
195. 避難場所を明確にする。　（２１歳女性）
196. 普段からの備え。　（２２歳女性）
197. 家具の補強や、食料の備蓄。　（５４歳女性）
198. 起こってからではなく、起こる前にあらゆる想定をし、準備が必要。　（３７歳男性）
199. 落ち着いた行動。情報収集。日頃からの備え。　（４８歳女性）

200．準備。訓練。　（４１歳女性）
201．日頃から万が一のときのことを考えて行動しておくこと。　（２９歳女性）
202．河川や道路の工事、水道管やガス管の工事の時など考えうる耐震の対策をすること。　（４１歳女性）
203．一人一人が防災等の情報を早く知る事。　（６４歳男性）
204．東日本大震災において、学んだことを一つでも多く次の震災時に活用できるように励む。（５０歳女性）
205．火の周りなどは特に整理しておく。素早く行動に出来る為。　（６４歳女性）
206．わからない。　（６３歳女性）
207．家（建物）に免震システム（シーカス）のようなものがついていれば良かった。　（５６歳男性）
208．家の家具の固定や置き場所など。　（３６歳女性）
209．情報伝達、共有、協同すること。　（５８歳女性）
210．協調性。　（５２歳女性）
211．備え。訓練。　（３２歳男性）
212．自助を行うこと。　（６３歳男性）
213．忘れない！３．１１の被害状況を、町の広報や職場で折に触れて話題にする。　（５６歳女性）
214．普段から発生し得る被害を予測し、絶えず防災に対する知識、認識を啓蒙し続けてほしいです。（５５歳女性）
215．いつ何が起きても大丈夫なように備えが必要。　（３２歳女性）
216．危険箇所の把握、点検。ガソリン補充→日頃から早めにチェック。ガソリンがないと車使用できない事を実感、後悔したため。ガソリンスタンドでの争いは怖かった。　（５１歳女性）
217．日頃から災害に対する備え、整理、整頓。災害時の避難に対する町の事（避難場所や誰に聞くとか）。（４５歳女性）
218．災害時に備えた準備をしておくこと。災害時の連絡、行動することを家族で話し合っておくこと。（３５歳女性）
219．原発はいらない。　（５７歳女性）
220．減災に必要な事は、災害静穏期に訓練を行うこと。日頃より家庭で話し合うべき。　（４１歳女性）
221．小規模の地域ぐるみで、安全対策を考えておく。　（５２歳女性）
222．日頃の点検と補修。訓練、助け合い。　（５７歳女性）
223．個人の意識の向上。危機管理能力を高める。　（４７歳女性）
224．家具類が倒れないようにしておく。物を多く置かない。常に意識して行動する。　（５７歳女性）
225．災害時には慌てるものですが、そういう時こそ、声を掛け合って行動することが大切だと思います。（５１歳女性）
226．防災グッズ。非常用品の整理。　（５０歳女性）
227．家具の固定や食器棚の扉を紐等で固定する。　（５４歳女性）
228．普段からの物の準備、整理。　（３７歳女性）
229．正確な情報を速やかに伝える。　（５０歳女性）
230．″災いは忘れた頃にやってくる″と言うので、普段からの備えが必要なんだと思います。　（２３歳女性）
231．日頃からの準備（物品もそうだが、心の準備）。　（４１歳女性）
232．事前準備。　（２１歳女性）
233．家屋の補強。塀など倒壊しないよう補強、改築。家族同士の連絡網。地域との連絡網の整備。（５７歳男性）
234．普段の備蓄、訓練。　（３９歳女性）
235．使わないコンセントは抜く。　（２５歳女性）
236．声掛け。　（５０歳男性）
237．いかに情報を早く伝えるか。　（３９歳女性）
238．日頃からの訓練が大切。行政も含めて。　（５３歳女性）
239．みんなの助け合う心。　（４６歳女性）
240．準備と心構え。　（５４歳女性）
241．備え。防災訓練。　（３５歳女性）
242．災害に備え、食料を備蓄し、家具など倒れそうなものを補強し、怪我をせず、活動出来るように備えること。（４３歳女性）
243．日頃の訓練が大切。　（４６歳女性）
244．自分の事は自分でする。　（５３歳女性）
245．災害を想定して備える事。　（２９歳女性）
246．常に一人一人が取り組んでいく。準備をしておく。　（３２歳男性）

247. 自分は大丈夫という過信をなくす。　（２８歳女性）
248. 予測を立てて生活すること（普段から）。　（２７歳男性）
249. 最大限以上の被害を想定して、準備しておくこと。　（２９歳男性）
250. 防災道具を身の回りに置いておく。　（２６歳男性）
251. 日頃からの備え。　（２５歳男性）
252. 火事を防ぐこと。家具等の固定、また外壁についても倒れないような工夫。　（５７歳女性）
253. 町―避難訓練。国―原発検討。災害時の建造物の設置（防波堤など）。家―家具の固定。（４６歳女性）
254. 地質調査など、その地特有のリスクは考えておくべき。日頃からの備え。　（２３歳女性）
255. 災害に備えて、日頃から準備できるものを用意したり、避難訓練に参加するなど一人一人の心掛け。（２５歳女性）
256. 日常的に災害に対する備えや意識をする。　（４４歳男性）
257. 非常時に備え、食料や水、ラジオなどを纏めておくこと。物を倒れやすい所に置かない。日頃から、災害時にはどうするかを話し合っておく。　（２２歳女性）
258. 町内及び職場でのマニュアル、避難シミュレーションが必要であると思います。　（５８歳女性）
259. 日頃から、災害が起きた時に、市町村はどこで何を支援してくれるのか、きちんと発信してもらいたい。一部の知っている人だけが、支援を受けられているのはおかしい。　（４１歳女性）
260. 食品棚などは、つっぱり棒で留めておく。地震の知識を身につけておく。　（３３歳男性）
261. 家庭で災害に備え、家族で話し合っておく。地域の方との声の掛け合い。　（５１歳女性）
262. 普段から、家族で緊急の際の連絡などを確認して置く。　（５０歳女性）
263. 普段から地震に対する備えをする。（家具が倒れないようにする。ガラスが割れないようにする。）（３５歳女性）
264. 各自、普段から備えておく（食料とか）。　（３４歳女性）
265. 家の周りなどチェックし、補強しておく。　（５７歳女性）
266. 日頃からの訓練及び備え。　（５０歳女性）
267. 避難場所の確保。　（２１歳女性）
268. 建物診断を受けて、震度何まで耐えられるのか知る。耐震の為の方法を知っておく。　（５２歳女性）
269. 自助や共助を、もっと一人一人が意識する。　（３９歳女性）
270. 個人の意識。自治体の啓蒙。　（３０女性）
271. 災害が起きることを、想定して準備をしておくこと。　（４３歳女性）
272. 原発廃止。　（４５歳男性）
273. 避難場所の確認をしておくなど。　（４０歳女性）
274. 想定した備え。訓練。　（４９歳女性）
275. 各自の備え。訓練。情報の共有。　（４７歳女性）
276. 情報を隠さず、伝えること！！　（３７歳女性）
277. 災害に対する蓄えをしておく。　（３９歳女性）
278. 災害を想定した訓練。生活物資の備え。　（５６歳男性）
279. 町内会などでの避難ルートの確認や老人などへの安否確認。緊急連絡ラインの整備など。（４８歳女性）
280. 訓練。シミュレーション。　（３７歳男性）
281. 災害は起こるものだと認識して、必要最小限の備えておくべきだと思う。　（５３歳男性）
282. 常に必要になるものを備えておく。　（２９歳男性）
283. 避難所、連絡通路の確保。　（２３歳男性）
284. 日頃から万が一に備えて行動する。　（２５歳男性）
285. ハザードマップの作成と町内減災訓練など。　（４１歳男性）
286. 訓練を定期的に行う。　（２５歳女性）
287. 災害に強い町作り（インフラ等）。防災訓練。　（２７歳男性）
288. コミュニティで対策準備を十分にする。家庭で対策準備を十分にする。　（４０歳男性）
289. 備え。協力。　（４２歳女性）
290. 普段から災害について考え、備える。　（２６歳女性）
291. 自助、共助、公助の考えに基づき、日頃の備えや地域、行政との連携を強化しておく。正確な偽りのない情報提供をしっかり地域住民に行うことが、減災に繋がると思う。訓練。　（４１歳女性）
292. ２次災害など、起こりえる事を家族で話し合いをし、対処法など（連絡法、避難など）を常に確認するようにする。（５７歳女性）
293. 整理整頓。片付け。　（３５歳女性）

294. 近隣の人達との交流を密にする。日頃の防災に対する備えをしておく。　（４０歳男性）
295. それぞれの準備。後世に伝えていく事。　（３３歳男性）
296. 連絡、連携が取れるシステム作り（家族、職場、近所、行政）。　（３８歳女性）
297. 防火など。　（５９歳男性）
298. 落ち着いて行動。情報が、十分、正確に得られること。　（５６歳男性）
299. 怪我人を救ってあげること。　（５１歳男性）
300. 普段から災害について想定しておく。　（５５歳男性）
301. 災害を想定した普段からの備え。　（５２歳女性）
302. 個人個人で準備する。老人世帯に対する援助、支援体制を整える。　（４８歳女性）
303. 助け合い！　（３０歳男性）
304. 個人の備えと、地域、職場の連絡網。　（３１歳女性）
305. 町内や近所での助け合いは必要と感じた。　（４１歳女性）
306. 災害に備え、家庭でも日頃から話し合いをし、災害時必要と予測出来る物を準備しておく。（４０歳女性）
307. 伊達市は危険なところのマップなど、情報が伝達されている。安全な場所を確保（避難場所）。（４３歳女性）
308. コミュニティの絆。繋がり。　（３３歳女性）
309. 訓練。　（３８歳女性）
310. 普段から災害に関して考える場面を作る。避難訓練を地域でも行う。　（２７歳男性）
311. 地域と連携。　（４３歳女性）
312. いつ災害が起こってもいいように、食料などを蓄えておく。　（２１歳女性）
313. （建物は）耐震構造にする。　（４９歳女性）
314. 正しい情報、最新の情報を知る事が出来るシステムが必要。　（５０歳女性）
315. 情報。　（４８歳女性）
316. 日頃からの備え。　（５５歳女性）
317. 教訓を活かし、日頃からの備え。　（４３歳女性）
318. 日頃からの訓練とネットワーク。　（５８歳女性）
319. 普段より自助できることを考え、備えておくこと。一人一人の意識で減災できると思う。（３６歳女性）
320. 常に非常時に対して自分がどう動くべきか、家族とどう協力していくか、非常食の確保など、備えておく必要がある。（３４歳女性）
321. 地域、職場などの協力体制。　（５９歳女性）
322. 冷静で迅速な対応。　（４７歳女性）
323. 常に自分で準備をしておくことが大事だと思う。　（２４歳女性）
324. 地域で、災害時の対応を情報共有しておく。　（３６歳女性）
325. 自然を汚さない。　（３５歳女性）
326. 少しずつ備蓄しておくこと。　（４４歳女性）
327. 固定できるものは、出来るだけ固定（壁などへ）しておく。不要なものを普段から片付けておく。（７６歳男性）
328. 常日頃より減災を意識し、備えをする。　（７５歳男性）
329. いろいろ備えておく。　（４０歳女性）
330. 災害を最小限に抑えるよう取り組むこと。　（２３歳女性）
331. 教訓を活かして、実際に出来る事を考えて欲しい。　（４０歳女性）
332. 備え。　（３９歳女性）
333. 普段からの備えが大切。　（２１歳女性）
334. 建築基準、火災を起こさない為の工夫、パニックにならないための訓練、情報を確実に伝えるための手段。（４６歳女性）
335. 周囲の環境をできるだけシンプルにしておく。危険な場所に物を置いたりしない。　（３６歳女性）
336. 災害の発生を想定して、家族、地域で話し合いや訓練をする。防災マップ等の情報を県や市町村は、周知する努力をする。　（５５歳女性）
337. 随時、訓練や備えが必要であると思う。　（３９歳女性）
338. 日頃からの備え（個人、地域、行政）。日頃からの訓練、意識づけ。　（４５歳女性）
339. 日頃から災害時の対策をとる。　（３８歳女性）
340. 蓄え（日頃からの準備）。近所との関わりは特に何もなかったし、お互い自分の事でいっぱいいっぱいだと思う。（４１歳女性）

341. Ｑ６の１～３（自助・共助・公助）の内容が大切と思います。　（５１歳女性）
342. 家の管理（耐震構造、家屋内の整理等）＝自助的。石や高い塀を禁止する。＝公的。　（４８歳女性）
343. 町内会等で普段から備えておく。　（５５歳女性）
344. 日頃からの訓練と備えを十分にしておくこと。　（４９歳女性）
345. 定期的な防災の見直しと訓練が重要だと思います。　（５６歳女性）
346. 常日頃からの訓練は、必要と感じます（災害は忘れた頃にやってくると思うので…）。　（４５歳女性）
347. 一人一人が自分自身を守れるように備えていること（物だけでなく気持ちも）。　（２５歳女性）
348. 日々の訓練。啓蒙活動。　（４０歳女性）
349. 周りの住民と常にコミュニケーションをとり、よい人間関係を作っておき、助け合うこと。（４４歳女性）
350. 災害時困らない様に必要なものを整えておくこと。避難場所を明確にしておくこと。　（５６歳女性）
351. 建物などの倒壊を防ぐための設備投資など。　（２６歳女性）
352. 原発（東電）は過去何度も事故隠し、改ざんを繰り返してきた。今回、被害はもっと少なかったはず。（５７歳男性）
353. 訓練を定期的に！　（５７歳女性）
354. 思いつきません。　（４９歳男性）
355. 災害のための準備をしておく。　（４３歳女性）
356. 事前に補修が出来る道路や電線を直しておく。　（３８歳女性）
357. 日頃からの備え。　（４１歳女性）
358. 安全な場所への避難誘導訓練と避難場所の住民への周知。　（４２歳男性）
359. 市・町・村、一軒一軒回って災害状況など声かけたり、出来る事を少しでも早く行う。（年齢不明・女性）
360. 正しい情報（原子力に関して）。災害時というのは、地震に関しての減災でしょうか？地震のみか、その他の災害も含むのかで取り組みは違うと思います。　（年齢不明・女性）
361. 各自の災害に対する備えをしておく。職場・地域での訓練。行政がマニュアルをしっかり作る。（５２歳女性）
362. 日頃の訓練、準備。　（６０歳女性）
363. ″震災″という意識付けが必要。家の耐震補強。備蓄。教育現場で教えていく。　（５８歳女性）
364. ご近所とのコミュニケーション。　（５２歳男性）
365. 取り乱さない。落ち着く。普段から災害を想定しておく。　（２７歳女性）
366. 日頃からの訓練。　（５２歳女性）
367. 訓練。　（４４歳男性）
368. 災害時の訓練。各家庭への情報伝達の工夫。　（５１歳女性）
369. 自分の身（家族）は自分で守るを基本に、常に考え又、備えを怠らぬ事。　（７４歳男性）
370. 自助も共助も公助も、準備は全部必要だと思う。災害を想定して、先ず住民の家族状況の確認や災害時にどんな手助けを必要とするか町で知っておく必要があると思います。　（４０歳女性）
371. 防災グッズを身近に置いて、いざという時は素早く逃げる。　（６５歳女性）
372. 自分で出来る範囲内を実施し、それでも不十分となるところから行政のバックアップが必要か。（５８歳男性）
373. 常日頃の講習会やビデオ上映で、災害時の初歩的な対応の仕方を教えて欲しいです。　（６２歳女性）
374. 町の敏速な対応。　（４０歳男性）
375. 日頃の心構え。　（３０歳男性）
376. 落ち着いて冷静に行動する。一人一人が協力して自分の出来る事をして何をするべきか考える。（３６歳男性）
377. 情報を収集すること。　（５５歳男性）
378. 日頃の訓練と共同。　（７７歳男性）
379. 防災体制の徹底。　（６６歳男性）
380. 人的な事か？生活全体的な事かによって考えは違うが、考えられる災害状況の結果による行動、対策を事前に確認しておき、即、実行対応可能な状態を作っておく。飲料水、電気、ガス、水洗トイレの水、おしめ、ミルク、避難所、治療所、ガソリン等の生活必需品の確保。　（６６歳男性）
381. 訓練。　（３５歳女性）
382. 日常的に、危険な物は整理して片付けておく。近所でも常にコミュニケーションを取ると良いと思います。（６０歳女性）
383. 班長は、１年輪番なので、町内が２～３班に１名○○の災害発生時の連絡係があったらいいかと…。（８１歳女性）

384. 可能な範囲で起きている事態の事実や真実の情報を伝え、憶測やデマによって不安をあおられ、心痛を増し加えないようにして、状況に対処できるように助ける事。　（６２歳女性）
385. 常日頃から災害に備えて訓練をしておく。　（７７歳男性）

Ｑ８　災害対策、防災、減災等に関して、お考えのことや思いなど、具体的にお書きください。

Ｑ８（自由記入欄）について
＊ご記入いただいたのは２１４件でした。
＊この２１４件の様々なご意見を振り分けた結果、大きく１０項目に分類することが出来ました。
＊判読不能文字は○○で表記し、各々の意見には記入者の（年齢・性別）を付記しています。

【テーマの分類について】
１．町政について
２．情報提供について
３．町内会について
４．避難所について
５．物資について
６．日頃の備えについて
７．地域・家族間のコミュニケーションについて
８．原発関連について
９．国の対応・施策について
１０．その他のご意見

１．町政について

1. 停電に因る信号機不点。交通渋滞。体につける反射板等。　（７５歳男性）
2. 防災マップの配布や防災行政無線の活用などは良いと思います。１人暮らしの家や老夫婦の家が多くなっていますので、やはり町内会や、行政の力も必要になるでしょう。その時の関わり方を明確にしておくことも大切かと思います。ボランティアの活動も助けになります。（自分が出来ることを考えておきたいです。）（６７歳女性）
3. 被害はどんなことをしても避けられないので、出来るだけ他人の迷惑にならないようにしたい。さりとて、それにも限界があり、その場でベストを尽くすことが必要だが、本部に頼るしかないと思う。（６４歳男性）
4. 2011.3.11の時は避難はしませんでしたが、食料や水が不足し、自立で補充して家族が生きていくのに苦労しました。住むところがなくなった方々はお気の毒ですが、全国からの支援物資を自立で頑張っている人たちにも分ける事はできないでしょうか。ペットボトル１本でも感謝したいと思います。また、情報が欲しかったので、無線や広報車を走らせて、知らせて頂きたい。　（５７歳女性）
5. 国見町は他の国内地域に比べ、災害の起きない土地だと思います。（住みやすいといえますが）その為、常日頃の平穏に慣れきっている傾向にあります。″いざ″はくるものと思い、心とに留めておき、物心両面で準備しておく必要があります。個々人を啓発していくことが町の務めと考えます。　（６２歳女性）
6. 月に１度、防災の日を設定し、各家庭や職場ごとに確認する日を設ける。行政は、ガイドラインを作成し、啓発を行う。（４５歳男性）
7. 最悪の事態を想定したルール作りの徹底。　（４０歳男性）
8. 今、母親（９０才）と同居中です。脳梗塞です。どうすることもなく、家で寒さの中余震の中過ごしました。死んでもいいと思いました（みんなで）。Ｑ救ちゃんを登録させてもらいました（２人分です）。よろしくお願いいたします。（Ｑ救ちゃん＝平成２５年４月頃です）　（７０歳男性）
9. 初動が重要だと思います。　（５３歳男性）
10. 上野は地震、水害の心配はしておりませんが風の災害を心配しております。十分な保険が必要だと思っています。10年前から家のリフォームをやり、家具は全てＬ型とダンボールで固定しておいたので、地震では不安定な花瓶１本の被害で済みました。　（７３歳男性）
11. ~~高濃度の放射線が放たれた時の為の、放射能訓練とかをするか、体験談とか本に纏めたりしたほうがいいと思います。もうあるか。自宅待機とか…。~~今できる事をします。　（３６歳女性）
12. 災害時、役場は何が出来るかを住民に周知徹底する。　（６６歳男性）
13. 被災者の視線で考え、対応をすること。同情ではなく、被災者の視線でカウンセリングをも考えておくこと。被災及罹災等の証明書等は迅速に行うこと。　（６２歳男性）
14. 液状化現象による被害が多かったように思うので、町内の液状化マップなどを作成してもいいと思う。（３３歳男性）
15. 防災訓練を何回も繰り返しやることで、実際の災害時にも慌てずに行動できるのではないでしょうか。（３８歳男性）
16. 正しい情報が速やかに得られる方策に期待。ハザードマップに各地区の避難場所を、災害別に取り決めをしてほしい。地震の場合と水害では避難場所は同じにならないことが予想される。　（６７歳男性）
17. 防災無線設備を常に有効利用できるように、訓練しておく。　（６３歳男性）
18. ※各方部及び町内会別に、年１回位の町担当者から災害・防災等について、説明あればいいと思う。（６９歳男性）

19. 救命対策、救護対策又情報伝達等の役割分担。　（６６歳男性）
20. 電力に頼らない情報の伝達。　（７７歳男性）
21. 検証が遅すぎた。町と町内会が話し合い、個々に防災対応策が必要。　（７２歳男性）
22. 災害時に大きな働きをみせたのは地元を熟知する消防団であったことから、平時から町民主体で消防団活動を支援することが必要だと思います。災害後の各種支援、手続きに必要となる罹災証明の発行について、今回のような大規模災害で、大量の発行が見込まれる事態を想定し、より迅速に対応出来るように平時から検討しておくことが必要だと思います。　（３８歳男性）
23. いかなる災害でも、防災の拠点となる役場の強化。災害時の飲料水の確保。特に病院への水の確保。（６４歳男性）
24. これまでの災害歴や埋め立て地（旧池、田、河川）、今回の震災で被害の大きかった場所、藤田西断層などを、ＭＡＰにして公表してもよいのでは？　（２７歳男性）
25. 避難所に避難された方達も貴重な労働力。運営に関して、避難された方も積極的に参加できるような広報を普段からする。　（６２歳男性）
26. 乳幼児がいる家族には、おむつ、ミルク等足りなくなるため、行政でも何かしら対応があると良いと思う。（２７歳女性）
27. 個人で対策するには限度があり、町・町内会の手助けが必要。職場が町外なので特に感じます。日頃からの訓練等もしっかりやるべき。　（５７歳男性）
28. 防災無線は良かった。ボランティアの確保、組織化など具体的に企画することなど。　（６０歳男性）
29. 危険箇所の定期点検及び補修。ハザードマップの作成。大規模災害訓練。　（４８歳男性）
30. 防災の日として町で年１回、家庭での災害への備えをしているか、声かけするなどして、いざという時に備えておくことが大事なのではないかと思う。　（２８歳女性）
31. 今回の地震は、あまりにも想像の範囲を超えるものであり、今回の災害に備えるのもいいと思いますが、あまりに　も防災の方に重点を置き過ぎないように、これからの人々の生活方に行政の力を注いだ方がよいと思う。（５３歳男性）
32. 災害時の役場や県庁、消防署、警察署への連絡が病院から出来なくなったので、緊急時使用する直接つながる回線を準備したり、衛星回線など対応を考えておいた方が良いと思う。　（３６歳男性）
33. 今日の災害は情報が伝わらなかったことが一考でした。仕事場が病院でしたので、被災したという状況ではなく、外（病院の）の状況が全く入ってこず、病院として何をすべきかどうすればもっと災害に対応出来るか考える情報がなかったです。また、消防、町、病院のお互いの情報が取れず、どうなっているのかも分からず、どうすれば情報が得られるかもわかりませんでした。町役場が使用出来なくなったのも、大きな原因ですね。（６２歳女性）
34. 自助の精神が必要だが、行政がチラシを配布したり、防災の日を設け、災害対策について啓蒙して欲しい。（４５歳男性）
35. 他県から仕事の都合で福島に一人暮らしをしているのだが、やはり一人暮らしは不安で、震災時も、どのようにこうどうすれば良いかや、情報の取り方がわからなかった。また、震災後の放射能測定などの通知も来なく、受けていない。一人の人でも、動きやすいようなマニュアル等、何かあればいいと思う。　（２４歳女性）
36. 自助・共助・公助は全て必要。原発問題に対しては、想定外の出来事であり、正しい情報がなく不安であった。（４４歳女性）
37. 日頃から災害に備えることが出来れば良いが、高齢であったり、若くても身体が思うように動かなくて日頃から備える事が出来ない人や、避難出来ない人、情報がうまく取れないため物資提供が受けられない人などもいるため、町内会もどのように対応していくのか普段から考えておく必要があるが、行政ももっと早い対応をお願いしたい。　（５６歳女性）
38. 福島県での対応策は、まだまだ不十分だと思う。避難場所がどこにあるのか、誰がみてもわかるような表示や、災害時の物資などをどこの地区でも、誰でも受け取れるような仕組みにしてほしい。子供のいる家庭には、特に安全・安心を考慮した働きかけをもっと行うべきだと思う。　（３２歳女性）
39. 今回の災害の経験を無駄にしないように、振り返りを行い、対策を検討することが大切だと思います。ガソリン（給油）情報に振り回されてしまった。無駄に並ばずに購入できるよう、地域指定などが避難場所のように決まっていれば良いと思う。あとは、お互いを思い合う気持ちが大切だと思った。　（３３歳女性）
40. とにかく何をするにも遅すぎる。除染だって。義援金にしても、避難している人ばかり優遇されているとしか思えない。避難していなくても、同じ被災者なのだからもっと平等に扱って欲しい。もっと首長が先頭に立ち、国になり、県なりに意見を述べてほしい。都会だったらこんなに復興は遅れないはず。田舎だからなのかと悔しくて仕方がない。子供の遊び場もどうにかしてほしい。　（３７歳男性）
41. 地域で避難所に行かず、自宅で生活している住民にも目を向けてほしい。　（４８歳女性）
42. 自己完結出来る事は１番必要だが、不足の事態に備えて町民、町、病院や会社など、地域全体で訓練することも必要だと思います。　（３２歳男性）
43. 公助で行った災害対策、防災に対する情報の公表（町内回覧板等の掲示）。状況、復旧の日、時間等の情報。（６３歳男性）
44. 風の向きを知らせて欲しい（原発（放射能漏れ）時）火災時。断水の時の水供給所（常設）。利用可能な施設情報（特定の人だけが知っているということがないように）。　（５５歳女性）
45. 危険な場所（道路、橋、崖等）を、日頃から点検をして早めに修理したり、危険箇所を知っておく。（５２歳女性）

46. 災害後の町や市での対応をもう少ししっかりやってほしい。妹（高校３年生）が、震災後にバセドウ病に罹り、今も病気と闘っていますが、白石市は甲状腺の検査もしてくれないし、保障もなく大変です。せめて、小学校、中学校、高校生対象の検査はあってもいいのではないかと思います。　（２３歳女性）
47. 行政は、避難所、現地対策本部、医療現場に衛星ブローバンド搭載の災害対策支援車両を配置する。援助活動する者に食料、水を支援する。　（５０歳男性）
48. 公的機関は最○ではなく、何が必要なのか考えてほしい。　（５０歳女性）
49. 災害対策といっても、いつ何時発生するかわからないので、できるだけ早く策を練るなどしたほうが良いと思う。　（２３歳女性）
50. 行政（役場等）は、災害時における救助や支援の優先順位を明確にし、水や燃料等の支援をして欲しい。（４４歳男性）
51. 今回の震災は、災害対策を個人、地域や行政が問い直すよい機会だったと思う。反省すべき点は反省し、改善し、町民が一体となって取り組むべき課題であり、行政にはその上で、リーダーシップをとり、防災、減災をすすめてほしいと思う。　（４１歳女性）
52. 広域での対策。訓練が必要である。　（５６歳男性）
53. 個人で出来るレベルは限られてくるので、主は個人だと思うが、地域や職場サポート体制も整えていただきたい。　（３１歳女性）
54. 地域で取り組む防災訓練など行政が推進していけばよいと思う。防災の勉強会など。　（４９歳女性）
55. 非常時には、他人同士協力していく事が必要。落ち着いて行動すべきと考えるが、第一に子供の避難を優先させてほしい。自主的にとは言うが、金銭面での負担が大きいので、第一に優先して保障していただきたい。（３４歳女性）
56. 避難出来なかった人々に対しての対策を充実してほしい。他県との関係を充実。　（４０歳女性）
57. ″災いは忘れた頃にやってくる″といいますが、本当だと思いました。日頃からの備え、訓練の大切さを身をもって感じました。今後の防災に向けた対策に期待しています。　（４５歳女性）
58. 近所との関わりは特に何もなかったし、お互い自分の事でいっぱいいっぱいだと思う。町・市などの対応が遅すぎる気がした。　（４１歳女性）
59. 自助、共助、公助の連携を日頃から出来るように体制を作っておくこと。　（５５歳女性）
60. 定期的に住民に対し、地域（学校、施設etc）単位での災害訓練や、小さい子供やお年寄りにも分かりやすい集合教育を行い、いざという時に困らないよう、対策を行うことが大切だと思います。　（４９歳女性）
61. 避難場所を明確にしておくこと。日頃からの防災訓練をきちんとすること。　（５６歳女性）
62. 藤田病院は、今回の震災において外部からの連絡網がはっきりしていなかったと思われる。この部分への行政の関与が必要だったのでは。　（４９歳男性）
63. 行政や災害対策本部などが設置し、活動出来るためには、時間はどうしてもかかる。最小限の被害に抑えるためには、日頃から自分の身を守る訓練などを住民に周知していくことが必要だと思います。　（４２歳男性）
64. 他の地域ではどうしているか常に意識しておく。　（５２歳男性）
65. 震災の時、病院職員のために、ガソリンの確保などを町で行ってほしい。　（３７歳女性）
66. 町民に伝わる情報が遅い。安全の確保が出来ない。ガソリン不足にて、スタンドに何時間も並び脳梗塞など引き起こす例も多かった。公的にどうにかしてほしかった。　（５１歳女性）
67. 今回のような災害は、想定出来るものではありません。常に隣近所と付き合いをして、助け合わなければと思います。それにしてもやはり、行政の方々の対応とか意識、そして情報があまりにも今回は国見町は遅かったと思います。皆の為の役場、頼れる役場、個々の方に考えてもらいたいです。正直、個人レベルでやらなくてはと考えています。他の町の方に随分情報を頂き助けてもらいました。→国見町ではそれはやりませんと言われたり、不信感でいっぱいです。　（５１歳女性）
68. 災害とは突然くるものなので、現状でのパーフェクトな準備は無理だと思いますが、今回の震災の状況を踏まえて、問題のあったことや、物流ルートや備蓄（医薬品、日用品、テントなどのサバイバルキッドなど）などは、必要ではないかと思います（自助、共助、公助すべてにおいて）。　（４０歳女性）
69. 行政側も、住民側も、「もし自分だったらどうするか」との目線で対処するのが最も大切なのでは！通の一辺では、だめ。行政としての品質アップを図るべき！　（５８歳男性）
70. 対応の敏速化！！　（４０歳男性）
71. 小学校からの授業の中での意識など、早い段階からの教育指導。　（５５歳男性）
72. 災害状況に応じた復興手順に添って、速やかな対応行動が出来る体制の確立と、自己対応、行政対応の明確化と町民へのその周知徹底を図る。個人対応可能な事は個人責任で、行政対応不可欠な事は行政が遅延なく行動する。不可欠な水の確保が殆ど出来ていない。今や足となる車のガソリン、冬期であれば灯油の供給は業者任せで良いのか。食料品は早急な対応は必要ない。（炊き出し等）状況によって対応すれば良い。　（６６歳男性）
73. 東日本大震災を教訓に、役場窓口等がしっかり対応出来る様に、勉強してほしいです。職員があまりにも、緊急といえども、あまりにも仕事が遅くがっかりしました。　（６０歳女性）

２．情報提供

1. 情報を早く放送すること！！試験電波中だったかと思いますが、非常の場合電波法上の規制を無視しても早く放送開始すべき。回数も１日１回でなく、随時放送すべき！！（１例として）徳江大橋開通が朝で、そのお知らせは夕方でしたね。　（８１歳男性）
2. 正確な情報提供（防災無線にて）　（５９歳女性）
3. 的確な情報を町民に一刻も早く知らせる。　（６０歳女性）
4. 連絡網の充実。情報の伝達のスピード・正確性ＵＰ　（６５歳男性）
5. 的確な情報を流してほしいです。　（２９歳女性）
6. 精確・必要な情報の発信。どこに行けば水が貰えるか、ガソリンが買えるかなどの情報。　（５２歳女性）
7. 国を含め、各地方団体はもっと情報を流し、国民の知る権利を守ってほしい。　（５２歳女性）
8. ありのままの情報を隠さず流す！！　（５０歳女性）
9. 学校状況など明確にしてほしい。　（２１歳女性）
10. その時々の情報交換が出来る策が欲しい。　（２２歳女性）
11. 災害は必ず起こる、というのは十分承知している。今回の原子力発電所の爆発では、情報を隠すなど政府の対応に不信を抱いている。スピーディで計測した情報を伝えてくれたら、事故後外出する時はマスクなど対応が出来、少しでも放射能を回避できたと思う。　（５４歳女性）
12. 初めて経験した原子力災害で、誰もがどのように行動すれば良いのか手探りの状態だったと思うが、正確な情報が欲しかった。例えば、外出を控えるとか。当時の状況で、少しでも被ばくを軽減させる対策法などの情報が欲しかった。　（５０歳女性）
13. 震災後、自分達はどのような行動をとるべきか、家族で話し合うことが出来た。仕事のため、思うような行動を取れないのも事実。避難が必要になったとき、仕事を捨てることが出来るか。何が大切なのか。今も悩んでいます。情報が不十分であったり、一転二転すると、何を信じればいいのか分からなくなる。嘘はつかずに教えてほしい。　（４１歳女性）
14. テレビで防災や減災についての情報をまた放送してほしい。定期的にやらないと、忘れてしまうと思うから。（２２歳女性）
15. 停電した際の情報をどのようにして得るかが、今回重要だった。（原発事故での放射能が拡散していることを、あまり認識していなかった。水をもらいに外に出ることを知っていれば控えたかも…）　（５０歳女性）
16. 町内にスピーカーを設置し、外に居る人たちにも情報を伝える。　（５７歳女性）
17. 非常食などはあるけれど、実際どこへ避難して良いかわからない。　（２１歳女性）
18. 震災後、道路が不通、橋が使えないなどが発生した時に、すぐに知らせが通達出来るシステムが欲しい（情報）。ラジオは聞いていましたが…。　（５２歳女性）
19. 災害状況を正確に伝えて欲しい。　（４０歳女性）
20. 今回のような原発事故については、正確な情報を流してほしいと思う。　（４９歳女性）
21. 震災を経験して、義務教育の中で、訓練だけでなく、災害に対する知識を教育しないといけないのかなと思いました。　（２７歳男性）
22. 一人暮らしで、仕事に通勤していると、支援物資や水、ガソリンなど何一つ手にすることが出来なかった。皆に行きわたる為に、どうするかも考えて欲しい。情報を流すためにどうするか。正確な情報が欲しかった。（５０歳女性）
23. 情報共有が大切。　（５５歳女性）
24. 情報の迅速、共有すること。各々の備え。　（４３歳女性）
25. 水、食料、薬、ガソリンの常備を心掛ける。情報の確保。電気使用出来る場合は、テレビ・インターネットで。使用できない時は、ラジオで。３．１１時、テレビに情報は流れていたが、テロップで上下に出ても、自分の欲しい情報を得るには、ずっと見ていないとならなくて不便だった。例えば、１チャンネルでは、震災情報。２チャンネルでは、給水情報。３チャンネルでは、食料・給油情報。４チャンネルでは、交通情報と決めて放送して欲しい。　（５８歳女性）
26. きちんとした災害情報が、知らされていなかった。全ては無理だとしても、正しい情報がほしい。（５９歳女性）
27. いつくるかわからない災害に対して、自分で出来るところは準備するなど対策は必要と感じる。日頃からの備えがあれば対応も出来る。しかし、情報が少ないのが（届かない）一番困ると思うので、今後どのように対応していくか、準備すべきか、考えなくてはと思う。　（３９歳女性）
28. 情報社会であるがゆえ、遮断されてしまうと不安が募ります。目の前の事に懸命なうちは良いけれど、周りがどうなったのか情報がないし、取れず不安でした。　（６０歳女性）
29. 情報がスムーズに、より正確に入手できること。　（５２歳女性）
30. 情報をスピーディに流してほしい。分かりやすく、皆に平等に。水、食料、ガソリン、避難所の場所など。（３５歳女性）
31. 情報。　（４４歳男性）

３．町内会について

1. 町内会長さんがすぐに来て下さり、面倒見てもらい、仮設住宅も頼んでくれたり、一回り家の内外を見てくれたり、本当に助かり感謝でいっぱいでした。（宮町南住人）　（７２歳女性）
2. 常日頃、町内会自主防災組織の充実と活動が大切である。（推進を図って頂きたい。）　（７８歳男性）
3. 町内会も高齢化、役員の固定化でとても災害時に協力できる組織ではなくなっているのではないか。大規模な災害では町外勤務者（現役世代）が戻って来られないことも想定しないといけない。　（３７歳男性）
4. 町内会等ですぐ対応できる様子。組織作りが必要。　（６２歳男性）
5. 町内会単位・班単位・常に連絡しあったり、集まれる環境作りが出来ていれば、災害対策になるのかな？と思います。　（６２歳女性）
6. 災害時は町内会との連携が大事だと思いますが…。通学路の除染も早急にしてほしい。　（３６歳女性）
7. 世話人は、人格ある人を選ぶべきです。常日頃の嫉妬をこのような場所でいじめやいやがらせばかり続きました。絶対許せません。絶対に。手当だけ欲しい部落長では賛成出来ません。　（７２歳女性）
8. 自助・共助・公助の連携を、各町内の自主防災組織を通して、訓練、教育が必要であり、防災倉庫についても、各 町内会毎に設置し、管理し、身近での防災の意識を高める。各町内会毎に防災のためのリーダー教育も必要。（６８歳男性）
9. 町内各地で防災訓練を行っているが、訓練はうまく行くが実際の災害発生時には、まったく機能していない。避難場所さえ訓練時とは違う。安否確認も無し。部落（町内会）が全く機能していないと思う。　（５７歳男性）

４．避難所について

1. 避難している時は、自宅の近くが良いと思います。町内会の集会所など。遠くだと片付けするにも自宅に通うのが大変です。　（７０歳女性）
2. 避難所を見て思ったこと。トイレの現状は酷い。多くの人が一時に利用することと、水道が使用できないことでこの対策を考えておく必要がある。　（７１歳男性）
3. 自宅があまり災害に遭わなくても、避難所に集まり、お年寄りは自宅に帰ってから体調を悪くして死亡したので、誰でも避難所に集めるのはどうかと思います。　（７０歳女性）
4. 避難所のトイレについて。断水のため、使用後に水を流すことが出来ず、衛生上最も悪い状況だった。公園の沼の水を利用し、使用後の水洗として活用することが出来れば良かったのでは？　（７２歳男性）

５．物資について

1. 水と米とみそ、缶詰があれば１０日位は大丈夫。　（８２歳男性）
2. 水が一番必要である。水洗トイレ、顔洗い、手洗い。水道が止まった時、自宅に４００ℓタンクを備え付ければ良いかなと考えている。　（６５歳男性）
3. 住民一人一人が、災害は身近に起こり得ることだと認識しておく必要がある。　食糧、生活必需品の備蓄を自治体として常に行う。　（２７歳男性）
4. 水は大切です。町内に井戸を掘る。　（５０歳男性）
5. 備えさえあれば、2、３日は何とかなると思うので、日頃から大切な物などは纏めておくと良いと思いました。（４４歳男性）
6. ＴＶ、電気使用出来なかったので、情報収集出来ず苦労した。電池、携帯充電、ラジオなど防災グッズ。食品、毛布、シート、水など日頃から準備に務める。トイレットペーパー、ティッシュなど買い置きする。保存食の活用方法（冷凍、乾燥）の料理本を改めて購入学習した。職場に桑折町からは、配給（菓子パン）があった。国見町からは何もないとの声も聞かれた。食品を求める時間もなかった。物もなかったので、この差は大きかったです。（５１歳女性）
7. 食べる物に不自由した。私の家は、ガスと水は出たので食べる物がないスタッフもいたので、職場に大根、じゃがいも、乾物、缶詰など家にある物でみんなの分も調理して持参した。避難した人だけでなく、働いている人にも支給して欲しかった。全てに対し対応、対策が遅い（アンケート調査・除染・検査・情報）など全て…。娘の職場（千葉在住）は、被災地出身ということでお見舞い金を頂きました。　（５８歳女性）
8. 風呂に水が張ってあったので、トイレが流せた。ペットボトルのお茶（小）がたくさんあったので、不自由しなかったなど…。　（５１歳男性）
9. 近所に地下水が使用できるお宅があり、助かりました。町内での災害対策の取り組みは大切と思いました。（４１歳女性）
10. どのような災害でも、人間が生き延びるための水、食料は必要だと思います。　（年齢不明・女性）
11. 備蓄食料や水などの対応を十分に。　（３０歳女性）

６．日頃の備え

1. 避難物資は常に身近な所に置く。　（７０歳女性）
2. 日頃より周囲に目配りをし、危険箇所のチェックが必要。これは、自宅だけに留まらず、山・川・道路・etc…にも広げていきたい。又、定期的な順練により、不備な点を洗い出して修正していき、有事に備える。（６１歳男性）

3. 自分で日頃から備えるべきです（水・常備食などは特に！！）。個人、町内会、行政が一体となって動く。（６３歳女性）
4. 例えば、①橋。仮に１つの橋が壊れても、別の橋があればとりあえずなんとかなる。②河川。ヘビのようにくにゃくにゃにすれば水の力が弱まり、被害も少なくなるのではないかな。③キャンプ生活をしてみる。電気の無い生活をしてみれば、何が必要かわかる。　（６７歳男性）
5. 常に自分（含家族）のことを考え、自分で出来ることは極力する。そのうえで、周りの事にも注意を払う。日常生活において、何事にも注意し、それを習慣にする。行政の力は欠かせない、大きな支えとなります。（６８歳女性）
6. 職員が少ない中での対応は大変な事。少しでも常に住民の中で、いつ起きるかわからない災害に対応出来る意識を芽生えさせることが大切。防災訓練などを行っても、参加者が少ないなど意識が低い。→反省。（６４歳男性）
7. 他人事でなく常に練習する。　（７０歳男性）
8. 常時非常事態を頭に入れて、準備しておくこと。家の中に病人などいることをいつも思っていること。どこにいるか把握すべきである。　（５８歳男性）
9. 自衛力の強化。　（４３歳男性）
10. 災害時、避難する場所の確保や持ち出す物の準備等日頃から備えておくようにしたい。　（５７歳女性）
11. １．家具の設置も倒れてドアが開かなくなる事のないよう注意（トイレへ行けなかった）。 １．家具の開き戸等は中の者が飛び出さないよう、門の様な物を取り付ける（飛び出して足の踏み場もなかった）。 １．食器棚は各棚毎にタオルを敷くか、市販のすべり止めのシートを敷く。３・１１では、タオルを敷いて置いたのでガラス類、陶器類の破損はなかった。不思議な程だった。ガラス類で怪我をすることもなく助かった。 （６７歳女性）
12. 一人一人が、日頃から災害に対して関心を持つようにする。そのためには、定期的な訓練や研修を行うようにするとよい。　（３９歳男性）
13. 常に震災に備えておくのが大切だと思います。　（１５歳女性）
14. それぞれの立場で、防災の意識を持ってもらうようにする。　（３６歳男性）
15. 準備をしていても、不足の時は不足。その時に適宜対処しなければならない。　（４３歳男性）
16. 又来るかもしれないと思っています。各自、自分のことは自分で身を守るようにしましょう。　（５８歳女性）
17. 被災者は求めるばかりでなく、自立を考えなければならないと思う。災害に遭ってしまうことは避けられないが、災害に対して順応していく力が必要だと思う。　（５２歳女性）
18. 災害時、断水や停電により自分の事は自分でやらないといけないと感じさせられました。断水で、支所に何時間も待ち並び少しの水しか手に入らないので、日頃の備えが重要と感じました。（小さい子供を抱っこしながら、水をもらいに何時間も待つことは出来ないです。）　（３８歳女性）
19. いつでも対処できるように、家庭でも備品を備えておくこと。　（５１歳女性）
20. 日頃の訓練。　（５２歳女性）
21. 今回の地震を経験して、本当に日頃から色々と考えさせられました。思いもよらないことで、災害対策（水、食品、油、電池類等）準備しておかなければと思いました。　（６０歳女性）
22. Ｑ７に同じ。（個人個人が災害に備えて物品等準備し、避難時ルートや場所を確認しておく。連絡手段も。）（２０歳女性）
23. 訓練をして避難場所の経路の確認をしておく。　（６４歳男性）
24. 自然現象はいつくるかわからない不安がありますが、定期的に準備して、災害にあっても冷静に取り組み出来れば良いと思います。一人はみんなの為に。みんなは一人の為に力を合わせれば大きな力になると思います。（５０歳女性）
25. 家具は倒れないように十分に固定する。家の周りや家の中は動きやすいように整理しておく。インスタント食品や水、衣類等、貴重品など持ち出しやすいように準備しておく。　（６４歳女性）
26. 日頃からの災害訓練。日用品についての、各自の備蓄が必要。　（５８歳女性）
27. 突然生じるものなので、焦らず、落ち着いて、行動出来るように出来ればいいと思います。　（３５歳女性）
28. 市町村で防災訓練をしたり、避難場所の確認、又その避難場所で大丈夫なのか？自分なりに考え、家族にも常に意識するようにシミュレーションも大切だと思いました。いつ発生するかわからない災害に対して、備えは必要だと思います。　（５７歳女性）
29. 自分も今回の地震に遭遇してみて、日頃どれだけ災害に対しての意識が薄いか、備えがないかということに気づかされました。天災はいつやってくるのか分からないのだということを頭において、行動していきたいと思います。　（５１歳女性）
30. 自分が経験した事は、次の世代又は、他の地域の人達へ伝え、災害に備える心構えをしてほしい。（５７歳女性）
31. 震災時に、水や食料、ガソリンなど足りない。もっと準備しておけばよかったと感じるものが多かった。日頃からもしもの場合を考え、出来ることはやっておいた方が良いと思う。また、正しい情報が早く伝えられると良い。（２５歳女性）
32. 災害時はとにかく情報不足で混乱していた。実際、自ら震災を体験するとパニックになる。日頃から訓練や、知識を身につけておかなくてはいけないと思った。　（３３歳女性）

33. Ｑ６に書かれている様な、自助、公助、共助を日頃から考え、備えておく事。　（５１歳女性）
34. 備えあれば憂いなし。　（２７歳男性）
35. 予め災害に備え、訓練や必要物品を備えておくことが重要になる。　（２１歳女性）
36. 自分で減災対策（水、食料、他人との連絡方法など）を行うこと。　（７５歳男性）
37. 常に色々な場面を想定して、自分なりの準備、組織的・地域での準備。心構えが必要。　（４１歳女性）
38. 同上（落ち着いて冷静に行動する。一人一人が協力して自分の出来る事をして何をするべきか考える。）（３６歳男性）
39. 家具、冷蔵庫、大きな物の下敷きにならないように、ロープでしっかり固定する。　（６５歳女性）

７．地域・家族間のコミュニケーション

1. 地震の後、断水になることを考えていなかった。家族の安否確認が夕方になり（携帯不可）、避難は暗くなってからだった。故義父は施設利用中だったが、在宅では対応が難しい。災害は、いつ、どこで、どのような状況になるか分からない！！日頃の防災に対する意識、避難ルート、地域とのコミュニケーションなど助け合うことが大事。　（５１歳女性）
2. 現在介護中心の為、常に家族との会話、食料等の備蓄に心掛けたい。（防災マップを大いに利用したい）（７０歳女性）
3. ①困った時のではなく、常日頃近隣とのコミュニケーションを密にしておく。 ②いざという時は、一人暮らしや老々介護の家庭は心細く情報も届かず。一日一度で良いので、誰か顔を出して欲しかったです。 ③何かの時は、避難するにも足がなく心配です。　（７２歳女性）
4. お互いの心、気持を常に持ち合わせ、助け合う、安全安心を誓い合うこと。　（６３歳男性）
5. 地域の持つ昔からの繋がりと、大学などの若い考えを総合的に大事にしていくこと。人同士の繋がりを、今回の震災では特に感じたと思う。より広げて、互いに助け合える環境を作っていけたらいいと思う。　（２３歳男性）
6. 地域、隣組等の声掛けがなかった。　（７０歳男性）
7. 自然災害は、いつ、どこで起こるか分からないので、日頃からの備えが大切だと思う。住民一人一人が意識していかないといけないのではないか。繰り返しの訓練が必要。地域住民の繋がりを強くした方がいい（高齢者独居世帯等がある為）。行政は「想定外」ということがないよう、様々な場面をシュミレーションしておく必要がある。他の地域（県外）との連携を日頃から行っておくと、お互いに災害時に支援できる関係になる。（３４歳女性）
8. 家族の間で話し合いをする。今回のことをよく検証する。　（５３歳男性）
9. ご近所付き合いをしていること！いざという時はやはり″人″だと思うので！　（５４歳女性）
10. 一段落し落ち着くと、人は自分以内に目を向け、協力したいと思うものだと考える。そのような人の和を作ることで、できない事をできる事に!!　（５５歳女性）
11. 周りの人たちと助け合う。　（５９歳女性）
12. 今回の災害において、ない物をお互いに譲り合ったりしながら対応して来ました。近くにいる親せきとは、連絡し合っていたから出来たのだと思います。自分達で出来る事以外に必要なことだと思いますので、今後もお互いに助け合っていけたら良いと考えています。　（５９歳女性）
13. 災害から２年が経過し、自分の中の危機意識が薄れてきたように思う。日頃から、身の回りの整備や家族間の話し合いをしておく必要があると改めて思った。また、近所の関係も大切だと思う。（緊急時に協力出来るよう）（３０歳女性）
14. 周囲の人との協力、コミュニケーションをよくしておくことが全てに繋がると考えます。　（３９歳女性）
15. 家族の中で、災害時の話しをしておくことが重要と考える。　（５１歳女性）
16. 妊婦だったので、ガソリンもない中、病院に行く手段もなく、電話も繋がらなくて、とても不安だった。どこにいけば食料や水が手に入るかという情報が全くなく、ただ町中を彷徨うしかなかった。普段から、町内会などの関わりが無かったため、近所の人とも情報が無く、孤独な気持ちになった。　（３２歳女性）
17. 一人で出来ることは限られており、災害時は助け合いが必要だが、日頃から近所付き合いをして、お互い協力し合えるよう備えることが必要。ハザードマップなど見て、どこが危険なのか知っていることも大切。家族と、災害時はどのように連絡を取り合うのか確認しておくべき。　（４３歳女性）
18. 核家族化が進み、地域住民同士の連携が希薄になってきている。何か、観光設置などが…。　（３３歳男性）
19. 何度も被害を受けている場所に建物を建てたりしない。防災訓練、地域の繋がり、協力体制などの連携を普段から整えておく。　（３６歳女性）
20. 避難する場所、非常食、水など準備しておく。家族で話し合っておくこと。　（４９歳女性）
21. 災害が迫っている警告が出されたら、安全な場所に避難したい。また、危険な地域に住まないように出来るなら、危険は減ると思います。災害は、予期せぬときにやってくるので、色々対策を立てても役に立つかどうか定かではありませんが、前もって計画を立てておけば、はるかに対処しやすいものと考えています。また、普段から信頼できる友人達の存在は助けになるので、災害時は一層心強い支えや慰めを得て、元気づけられると思います。日頃から、そういう横の繋がりをたいせつにし、育んでおこうと努力しています。　（６２歳女性）

８．原発関連

1. 災害は忘れた頃にやってくる。常日頃の備えが大切。１人１人の自覚（私は大丈夫ということは無いのだから）。原発のことだが、放射線に対する正しい知識を持っている人は、何人位いたのだろうか？応援している政党はないが、今の総理大臣は原発再稼働、他国へ原発を売り込んだりしている。これ以上、絶対安全の無い原発を増やしたりしてほしくない。流れは、自由民主党になっていて、数の優位でどんどん進んでいったら、福島は置いてけぼりにされ、２０～３０年後は、惨めな状態になっているのではないだろうか…？私はあと生きても２０年位だろう。最後まで見届けられないのが残念だ。悔しい…。福島を大切にしたい。しかし本当に大丈夫なのか！（６４歳女性）
2. 災害発生に伴う復旧作業を迅速に出来るよう常に準備をしておく。特に生活環境に飛散した放射性物質の迅速な除去が何より優先されるべきです。放射性セシウムが身近に多く溜まっている水路や掘りの泥の隔離が大事です。（７０歳男性）
3. このアンケートとは直接関係ありませんが、町の各家庭の除染の具体的なことが発信されていません。国見町は遅すぎます。　（５０歳女性）
4. 先ずは、原発は稼働してはいけない。これから金になると電気を作ってはいけない。電気は、いくらでも発電出来る。原子力に頼る考えは人を滅ぼす。今の政治家には、何も知らないヌクヌク、奴○で、６２、９３の原子の悪玉を知っているのか。１００億年も人に関わることをゲンコツで知らせてやりたい。わかるかなあー。（７０歳男性）
5. 原発をどうにかしてほしい。　（２５歳男性）
6. 国見町は除染が遅いと思う。　（３６歳男性）
7. 除染が遅れている。　（８０歳女性）
8. 原発があったために被害が拡大した。今後も苦しめられ続けていく。生涯！自然災害には、しょうがないとあきらめられるが…。　（５７歳女性）
9. 下水処理場の汚泥の臭いが酷いです。早く汚泥を処理してほしい。　（３２歳男性）
10. 我町は大きな資源災害のうち、津波は無いが阿武隈川の氾濫、山手地区の土砂災害が考えられる。これらは、個人の力では何ともできない。行政に頼る他無いが、火災に関しては個人個人が常に気をつければ防ぐことが出来る。又今回の原発事故災害については、事故原因究明すら出来ていないのに、又全国で再稼動させようとしていることに怒りを覚える。原発は動かさなくても、その安全を維持するために大きな金がかかる為、電力会社はその分負債と（不良債権）して残る。それを防ぐため、電力会社は色々理屈をつけて再稼働させようとしている。人間の命より、金が大事だとしか思えない。　（７４歳男性）

９．国の対応・施策

1. 町は良くしてくれました（３．１１）。しかし、国の対応が（川内のゴミ等）本当に情けなかったです（今も）。自分達の（国会）政治への私欲が見えたりして、何故もっと現場に目を向けんのか…。国会は何のためにあるのか？　（６４歳男性）
2. 東京のために電力を補って（全て）きた福島が、震災で原発の事後に遭ってしまった事に対し、原発が終結するまで福島の電気料金は全て東京が払うべき。人が住めないような状況を作ってしまった東電は、どこに借金してでも福 島全戸に太陽光発電を無料で設置すべきだと思う。そうしないと、人が戻ってこないからです。国の対応は全くもって不足です。全戸にシェルターを設置してください。　（５３歳女性）
3. 震災はやむをえない事だが、原発の情報隠蔽など国の対応が大きな問題であり、現在も続いている事。（５４歳女性）
4. 放射線はさらされて生活することがどういうことか、国会議員など及びその家族が「安全という地域（福島）」に住んでみるべきだ。地震の対策をしなかった関係者から損害金を請求すべきだ！！　（５７歳男性）

10．その他のご意見

1. 早く元に戻ればいいと思います。　（３８歳男性）
2. 今回体験したことを忘れないで、今後に活かしていきたい。次の世代の人々にも伝えていきたい。（３８歳女性）
3. 今回の震災を教訓に、今一度見直したい。　（６４歳男性）
4. あの震災を忘れずに、防災意識を持って毎日を過ごして行きたい。　（３３歳女性）
5. 少し違いますが、女性職員でヒールの高い靴を履いている人がいます。いざという時、誘導できるのですか。役場の中で注意し合わないのですか。心構えが足りないと思います。　（５７歳女性）
6. 防災訓練や防災取決め等を忠実に守った為に大被災となってしまった例が意外に多く聞かれる。又自主判断で難を逃れたという事例も又多く聞く。如何に的確な情報判断が大事かという事が良くわかる。（８３歳男性）
7. 今回の大震災は通信、電気、水道、下水など全てがＳＴＯＰしてしまい、対処が難しい。パニックになり、他人の家の事など考えられないのではないでしょうか。実際の災害の程度にもよりますが、実際に起きた時、対応する事が最良。今後、高齢化が進み、自力での対応が出来るか、心配、不安ではないでしょうか。（６６歳男性）
8. 先日、熊出没の無線あれど、あまり丁寧な用語で「ピン」と来なかった。　（８６歳男性）
9. 日々が経過すると忘れてしまいがちですが、いつまでも忘れる事なく教訓として、生かしていきたいと思います。　（４５歳女性）
10. 同じ内容ですが…。あんなに、ライフラインが止まって大変だったのに、節電、節水をもう一度考えるべきだと思う。（４１歳女性）

11．災害当初は、助け合い、声掛けが多かったが、今は自分の事中心に動いていると感じる。一部の方は、ボランティアに頑張っていて、感謝感謝に思います。　（５０歳女性）
12．東日本大震災の体験はとても貴重で悲しいものでした。しかし、日々が過ぎて、防災に対し薄れていくのも確かである。各自、地域、行政で風化しないようにしたい。　（５２歳女性）

東日本大震災「国見町消防団の対応」

国見町消防団
団長　鈴木耕治

１、活動状況

東北地方太平洋沖地震が発生した当時、私は町消防団第４分団（大枝地区管轄）の分団長でした。

正副団長は町災害対策本部に出動し、分団長以下団員は管内の火災発生の有無や地震被害の状況を確認していました。その結果、国見町内の火災発生件数はゼロだったので、そのことについては消防団員として非常に安心しました。また、その現場確認中には防災行政無線（移動系）が非常に役に立ちました。消防団には正副分団長及び各消防車両に防災行政無線（移動系）が配備されており、電話（携帯電話も含む）が通じない状況のなか、互いに違う場所にいながら連絡を取り合うことができ、無線の重要性を改めて認識しました。

しかし、情報伝達に何も問題がなかったというわけではありませんでした。地震発生当日に、消防団の幹部会議（副分団長以上の団員が参集する）を緊急的に開催しましたが、会議の席上で出た情報が末端の団員まで正確に伝わらなかったことが少なからずありました。これを解消するには、消防団内部の連絡系統を再度団員に認識してもらう必要があるかと思います。

２、避難所運営

また、大枝地区にある東部高齢者活性化センターの避難所運営にも携わりました。毛布や非常食、飲料水は不足なく特段問題はなかったと感じています。さらに発電機も各地区に二基配備されており非常に役立ちました。しかし、二基では足りず地元の土木業者からお借りし、最終的には三基を使用したと記憶しています。発電機がなければ避難所の運営はかなり厳しいものとなったことは容易に想像できます。しかし、肝心の発電機の燃料であるガソリンがあまり無く、ガソリンの入手に苦労したことを記憶しています。ガソリンについても地元の土木業者等からいただき、大変助かりました。避難所運営について地元の方々から様々な援助をいただきましたこと、大変感謝しております。

また、情報不足も大きな問題でした。水、電気、それに先ほど申し上げたガソリン不足等の解消時期について、多くの人がその情報を求めていました。それらに対応できなかったことについては、非常に反省するべきだと思います。さらに、解消時期を知れればいいというわけではなく、一日でも一時間でも早く解消できるよう住民の方々は強く求めています。今回のような震災を想定できなかったことは誰もが一緒だとは思いますが、ライフラインの復旧については常時から関係機関等に強く訴えていくべきだと思います。

東日本大震災「国見町消防団の対応」

国見町消防団
副団長　佐藤　誠

私は当時、町消防団の教養分団副分団長をしていました。３月１１日、その日は家の近くの畑で仕事をしていました。１４時４６分、今までに経験した事の無い大きく長い地震がきました。余震もいつまでも続き、近所の方々も外に出て収まるのを恐れながら待ったものでした。余震も少しずつ収まり、まずは自分の家の状態がある程度安全であることを確認し、地元の石母田の屯所に行きました。屯所には、何人かの団員が出動しており、見回りを開始するところでした。当地区からの火災等が無い事を確認し、地区の巡回を頼み、本部が設営されているであろうと思われる役場に向かいました。しかし、行く途中から、役場も町内も大変な状況でした。

そこで、まずは各分団、各部に地元地区を任せることで、団長、副団長が本部に残り、なにかの時は連絡を取るということで、地元の部に戻り活動しました。

各消防団員は、各地区に於いてさまざまな活動を献身的、積極的に取り組んでいただいたという事で、有り難く思いました。

今回の震災では、今までにない被害が出ました。しかしながら、もし時間帯がずれて火災、人命を伴う救助活動が多発した場合、などと考えた場合に、ある程度のマニュアルは必要と思われます。

マニュアルは、ある意味基本ですから、それを基にした訓練を行い、どのような場面に於いても冷静に、臨機応変に対応出来るようにすることが、安全に消防団活動を行うことに繋がることと思われます。

東日本大震災時の貝田自主防災会での活動

貝田町内会（貝田自主防災会）
会長　阿部初男

地震発生後ただちに町内会役員（自主防災会役員）を招集し対策本部を立ち上げ、手分けをして被害状況の確認を行った。土砂崩れも無く、火災の発生もなく、ケガ人もなく、数軒屋根の瓦が落ちたくらいで、家屋の倒壊もなかった。

しかし、余震もあり水道、電気、電話などライフラインが不能となり、特に高齢者の方々の生活不安解消のため、公民館を避難所として開設した。消防団、婦人会を招集し、消防団には消防自動車により避難所開設の広報を行い、一人暮らしの高齢者を中心に約２０人の方が公民館に集合した。

避難所対策として、自家発電機を準備しガソリン、灯油を購入し避難所として準備した。近くの商店から、あるだけのパン、ラーメン、缶詰、野菜などの食材を購入し、寝具などの備品を持ち寄り婦人会の当番で、朝昼晩の三食を用意。夜間は町内会役員の当番で警備にあたり約１０日間暖房のある所でテレビを見ながら毎日を過ごせた避難者でした。

各家庭に於いては水の問題が発生し、２００リッターのタンク２基を購入し旧貝田簡易水道の水源地である四ツ穴より水を汲み配給する事としたが、雪があり建設会社に除雪を依頼し、２台の車にタンクを載せて午前一回午後一回の計二回、一世帯あたり３０リッターの水を水道が復旧

するまで毎日数回ピストン輸送で各世帯へ水を配給した。

暖の問題もあり水配給をしながら、希望者へ一世帯当たり灯油２０リッターを配った。その後、原発事故（放射能の問題）が発生し子を持つ親たちが心配となり避難対策を検討し山形県４箇所の市町村へ避難受け入れを許可していただき、子供会保護者を中心に約２０人の方に来ていただき、万一に備え準備をするよう打ち合わせを行い、もしそうなった場合バスの確保が難しく自家用車での移動となる為、避難用として一世帯２０リッターのガソリンの給油券を各家庭に配布した。

町内会役員、消防団、婦人会以外にも貝田町民全員が水配給への協力、寝具、米、野菜、肉などの食材の差し入れなど何らかの協力が得られ、一人で皆の為に、皆で一人の為に、の共助のありがたさ、大切さを感じさせられました。

不安いっぱいの避難所と私

内谷東町内会長
佐藤清二

発生した地震の大きさ、揺れに驚きながらわが身と家族の無事を確認後、町内会の各家に声をかけて回って無事を確認して安心したものです。町から避難所は小坂農村総合管理センターとの指示があったので、もう一度各家庭を回って避難するよう声をかけて自力で避難所へ行けない人を車に乗せて避難所へ向かいました。

避難所には地区の皆さんがそれぞれに毛布や着る物、食べ物等持ってきて大勢集まってきていましたが、地震による被害は避難所も同じで水道、電気がストップ、トイレも水が出なく使用できない、情報が入りにくい最悪の状況でした。夜になると、避難して来る人も増えて約２００人を超える位になり、各部屋満杯の状態でした。子ども、年寄り、体の弱い病人等いろんな人がおり、また地震の情報が入らない状況、震度６クラスの余震が何度も続くといった不安いっぱいの空気が狭い避難所を覆っていました。

そんな中で、電気を確保するため発電機の準備、暖房の確保等テキパキと行動する消防団や、婦人会、民生児童委員が避難して来て人たちへの対応などを見ていて心強く思い、この各団体と連携をとることで、「不安いっぱいの避難所」の統制及び対応ができると確信したので、組織が出来たばかりの小坂地区町内会自主防災会連絡協議会長の立場で、陣頭指揮をとることにしました。このことを小坂地区の各町内会長に連絡をとり話し合いの結果、当番を決めて避難所の対応にあたることにしました。

避難所生活の不安や不自由さに対処していくため、私はリーダーとして各町内会の役員、消防団や婦人会等の協力体制のもと、少しの水のため避難所前に並ぶ人たちへの給水、炊出しによる食事の配布、救援物資の飲み物やパンの配給、トイレ掃除、避難所内外の苦情対応にと、日夜を問わず安全を守るために没頭した日々が続きました。その間、町職員の頑張り、消防団の昼夜を問わない行動、婦人会の炊出しのご苦労には頭が下がる思いでした。また、避難している皆さん

それぞれが不平、不満があったと思いますが、お互いに励まし合い協力している姿が私にとっては大変助かりました。地震発生後から７日たって避難所が解除となり、一人また一人と自宅へ戻って行く姿を見送りながら、「何事もなくて、よかった」という安堵感でいっぱいでした。避難という本番に直面し、初めて陣頭指揮をとりましたが、ひとりの力では限界があり、すべてがうまくいったとは言い難いのですが、みんなで協力しあったことで「不安いっぱいの避難所」の問題解決に対処できたものと思います。今回の体験により避難所では早めにリーダーを決め、情報伝達、誘導警備、救護、食事、給水、トイレ掃除などの役割分担を行い、あらゆる物事に対処していく行動力が大事であると思いました。

徳江北自主防災会の検証

国見町民生児童委員協議会
会長　八巻忠一

今まで経験したことのない大地震に遭遇したのは、阿武隈川の堤防を車で走行中であった。あまりにものすごい揺れだったので停車して、大揺れに耐えている時に堤防の道路はみるみるうちに地割れが大きくなり、側面がくずれ始めて来て早くおさまる事を祈った。
長かった揺れがおさまり、車を走行させようと思ったが、地割れが大きくて前進できず、止むを得ずバックで１００m位走り方向転換して、やっとの思いで自宅にたどり着く事ができた。

すぐに自宅の被害の状況を確認し、火の点検確認し、カメラを持って我が町内会を歩いて回った。特に一人暮らしの家、老人家族の家、病人の家を優先して安否の確認をして歩いた。

回れば回る程被害が大きく、直ちに自主防災会を立ち上げ、徳江北部コミュニティーセンターに避難誘導を始めた。

まず森江野地区防災倉庫に行ったら鍵が開いてない。たまたまパトカーが来たので、役場まで行って鍵を持って来てもらった。助かった。（鍵はできていたが、代表者が預かり各地区町内会長に渡していなかった。）まず必要最小限の非常食・水を確保して避難所に戻った。

その当時、私は森江野季節保育所の責任者でもあったので、幼児たちの安否を確認に行ったら、先生達の指示で全員机の下に入って震えながら凌いでいた。全員無事だったので安心した。即各家庭に送り届ける手配をして、全員無事帰すことができた。

避難所には続々と避難者が集まり、３７名に達した。まず電気・水・食事等の手当てを、役員と元気な避難者達で検討した。電気関係については、建設会社より発電機を借入、社長により即設置、燃料関係も全面的に提供いただき電気が確保出来た。毛布・油が不足だったので、翌朝６時に役場に要請したが、全地区同様なので、毛布等については各自持ち寄り避難生活を続けた。

その間、自主防災役員班長会を数回開催して、各調査を実施した。
３月１３日午前６時～役員会、（１）住宅の被害状況（２）病人ケガ人の調査（３）水の必要者（４）炊き出し必要人数等の調査項目を１時間以内に調査報告を求めた。各班長より調査結果があがって来た。ケガ人が１人発生のため、救急車を手配、病院に搬送した。

飲料水について、役場よりタンク２個支給になったので、福島市飯坂より搬入する組織を作り、３月１８日迄の当番者を決定して、その任務に当たってもらったが、輸送車の燃料が足りなくなり、燃料については苦労した。

避難者生活の人数は３月１１日（金）３７名、１２日（土）２５名、１３日（日）１７名、１４日（月）１５名、１５日（火）１７名、１６日（水）２名であった。電気・水道も復旧したので避難所は３月１６日（水）で閉鎖した。

その間町内会の多くの皆様に差し入れ、手伝い等のご協力を賜った事に感謝いたします。この大災害にも関わらず、一人の死者も出さずに収束できた事は大きな教訓となった。

「東日本大震災」国見町婦人会の対応

国見町婦人会会長
安田節子

婦人会は女性防火クラブも兼ねており、震災など起きた時には炊き出しをすることになっておりました。

でも３月１１日の東日本大震災の時は、あまりの事の大きさに私は実際にはすぐに活動することはできませんでした。

夕方主人が役場から飛んできて「役場庁舎が壊れて文化センターが仮庁舎になった。体育館にはあふれるほどの人が集まっている。早く食事の用意を」と言われて、アッこれが本番だと、でも皆を回っても自分の家の事もあり良い返事をもらえぬまま文化センターに行きました。すると真っ暗な町内と違い非常灯に照らされた中は明るく多勢の役場職員がハイゼックスのご飯でおにぎりを作っている姿でした。もくもくと働く姿はたのもしく、とてもありがたかったです。

次の日から婦人会の人達も集まり４日目からは、町長さんから「安田さんにお願いします」と言われ引き受けました。

４９日間に及ぶ炊き出しになりましたが、朝・昼・夕食と自分の出来る範囲で協力するからと皆は強制もしないのに、多い時は１００人から、終わりに近い時は体育館に残った人が少なくなりましたが、１７・１８名はお手伝いに来ていただきました。

ガソリンが無いから自転車で来ましたといった大木戸のＹさん「明日またねという言葉が魔法の言葉で体はきつかったが続けられました」と話したＹさん。「皆さんありがとうございました」広報に桜の下で撮ってもらった写真がでて、脇に復興の“大きな原動力なった”という文字が書いてあり身の引き締まる思いがしました。

震災から３カ月後に、婦人会で研修をしてこの時の震災記をまとめました。当時の事を記録し後に伝える事は大事な事で、その時できなかった事を反省し次に役立てたいと思います。仲間がいまいると安心します。

避難した人達そして、男性にも手伝っていただいた今回の活動、奉仕する側、される側という事でなく、皆で乗り切ったから長く続けられたのだと思います。

皆さん本当にありがとうございました。

ライフライン初動復旧にあたり

国見町土木建設業協会
会長　佐久間友一

平成２３年３月１１日午後２時４６分、あゝ地震だと思った瞬間揺れは一気に激しさを増し事務所を飛び出した。

一度は揺れも止まり、ホッとしたのも束の間、再び大きく揺れ電線・電柱は地響きと共に波打ち、隣の屋根瓦は轟音と共に崩れ落ち高級乗用車を大破させた。

まず家族の安否、果たして家は大丈夫か、皆考えることは同じだった。

地震後すぐ電気、通信、水道も一切寸断され、情報はカーラジオからのアナウンサーの悲痛な叫び声、太平洋沿岸各地に大津波警報、海岸付近の住人の方、直ぐ避難、避難の連呼であった。

ほとんどの方は、暗闇の中ラジオから大地震の有り様を聴き、震源地、規模等が明らかになり想定外の震度７の大地震、大津波、原発事故と、皆がこれからの日本、福島県、そして我が故郷に未曾有の危機を感じた。

土木建設業協会として出来る事は何か、早速翌日役員で町内パトロールを行った。

町役場庁舎は内部被害が大きく業務が出来なくなり、急遽観月台文化センターを使用するとの事で、仮設トイレ・発電機等の手配、また教育施設内の避難所にも同様な仮設トイレ・ストーブの貸し出し等を多岐に亘ってお手伝いをした。

また、公共施設・民間施設について、道路の陥没・ブロック塀の倒壊・液状化現象による下水道マンホールの隆起、下水道管の破損による汚物の滞留等、早急にライフラインの復旧対策を講ずるべく、町と協議し全力で取組む事とした。

まずは、生活道路の確保・陥没箇所の囲い込み、砕石埋戻し、ブロック塀の片付け等危険箇所排除を最優先で行った。

次に生活関連では、下水道管の破損による汚物が管内充満、そして又マンホール一杯まで汚物が溢れ周囲に悪臭を発散させ、住民より苦情続出、緊急工事となった。

梅ノ町地区・日向地区マンホール内に強力汚泥ホンプを設置、揚水し道路排水側溝内に仮配管100m以上離れた次のマンホールまで接続、排水する計画とした。

そこで汚泥ポンプの手配を急いだが、震災の影響で各メーカー共材庫がなく、八方手を尽くし、神奈川県藤沢市の製作所にあることが判明したが、運送業者は原発、放射能の問題で福島県内への運搬は出来ないとの返事であった。高速道路は緊急車両のみ、一般車両はダメ、そこで一案、役場のステーションワゴンを緊急車両として、許可証を出して頂き、車両の前後に緊急車両を掲示、役場の運転手と協会の運転手１名乗車、藤沢市まで引取りに行く事にした。

仮配管準備は管工事組合と共同作業で前日まで完了しており、3 月 17 日汚泥ポンプ設置接続完了にて悪臭を解消する事ができた。

その後道路陥没箇所、地盤も圧密安定状態となり下水道管の入替え、マンホール築造後本舗装復旧工事を行い、震災の陰りも感じられなくなった。

最後に、今回の巨大地震は100年に一度の災害を引き起こし、岩手・宮城・福島・茨城県など、南北500km東西200kmの地域を震撼させ、また太平洋沿岸各地を巨大津波がスピードを上げ押寄せ呑込み尊い命をも奪い、死者・未だに行方不明者を含め、18,500人以上の大災害となった。

全力で当たった大規模災害復旧工事を、二度と行わずに済むよう祈るばかりである。

東日本大震災における国見町社会福祉協議会の動き

国見町社会福祉協議会
主任　朝内尚光

３月１１日　発災

社協本部は特に２階から損壊が激しく壁の中にあるブロックが崩れ落ち、中には天井を突き破って１階まで落ちているものもありました。余震により壁やブロックが落ちてくる危険があり、被害のほとんどなかったデイサービスセンターに本部を移し、職員一丸となって安否確認や災害ボランティアセンターの立ち上げに向けて業務に当たりました。ヘルパーについてはガソリンの不安を抱えながら訪問。また、職員によっては自転車や徒歩にて介助しました。

災害ボランティアセンターの立ち上げ

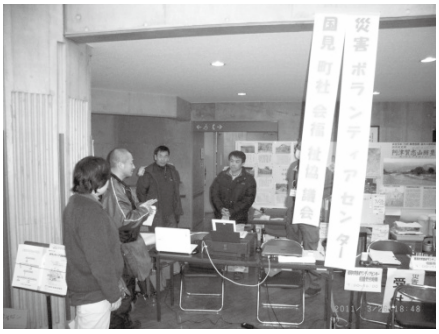
３月１３日、災害対策本部と相談のもと災害ボランティアセンター設置依頼を受けました。翌日より観月台文化センター入り口に机などを準備して立ち上げをしました。

ライフラインがある程度復旧するまでは、避難所を優先して活動。ボランティアさんが安心して活動できるように「災害ボランティア保険」の説明と加入手続きを行い、無償で保険に加入できるようにしました。

日赤奉仕団を中心にたくさんのボランティアさんが避難所の食事を作ってくれました。安田委員長は避難されている方の栄養のバランスを親身になって考えて避難所閉鎖まで中心になって活動してくださいました。

ボランティアさんは活動の前後、事故などがないようにミーティングを行いました。

国見町災害ボランティアセンター設置直後より、福島県社会福祉協議会や災害ボランティア活動支援プロジェクト会議による支援がはじまりました。相談の結果、３月２０日から４月８日まで関東ブロックからの職員協力が決まり、主に東京都社協と埼玉県社協から常時２名の社協職員が泊まりこみで支援してくださいました。



杉並区社協疋田さんとあきるの市社協栗原さん、埼玉県社協澤さん小島さんの引継ぎ。また、急遽支援物資を持ってきてくれた災害支援プロジェクト米澤さん。

一番大きな避難所である観月台体育館においては、環境整備として女子更衣室や掲示板を作ったり、お茶会などのサロン活動を実施したりしました。地域包括支援センターより「エコノミークラス症候群が不安であり、ある程度規則正しい生活もしてもらいたい」ということで、決められた時間に体操を行うことにしました。最初はデイサービス職員が中心になって１日２回行いましたが、途中からボランティアさんが中心になって行いました。午後 3 時からのお茶会も傾聴と

体操

お茶会

いう大げさなものではなく、ざっくばらんにお茶を飲みながら、困っていることなど聞かせてもらえればと思い始めました。このお茶会と体操は避難所が閉鎖するまで行われました。

避難所を少しでも快適に利用してもらえるように観月台避難所座談会を 2 回にわたって行い、大規模な清掃と区画割などを行いました。町内出身の高校生や小中学生、その保護者を中心に約 60 名のボランティアが行いました。

約 60 人のボランティアさんが大掃除を手伝ってくれました。300 人以上が避難していた体育館のほこりはすごい量でした。

大掃除をしながら人数に合わせて区画をつくり、通路を作りました。また、寝る場所と談話室をパネルで区切りテレビを搬入。この日は一般・高校生はもちろんですが小中学生が大活躍でした。これからの国見町を支えていく子供たちのひたむきな姿を見て心強く感じました。

青年僧による行茶活動。

避難所では週１～３回行われていた活動ですが、現在は駅前と上野、大木戸仮設住宅で月１回程度継続されています。

中高生が中心になって、「ボランティアやります」のポスターを貼りました。

このほかにも避難所における広報ポスターなどイラスト入りで丁寧に作ってくれました。

復旧が進み始めると、ニーズが瓦拾いや瓦礫の処理から荷物の移動や簡単な引越しの手伝いなどへと変化していきました。作業につきましては、本来基準とするべき建物の応急診断が進まなかったため作業に入るまで時間をいただく事が多くありました。これは、ボランティアさんには保険には入っていただいていますが、万が一にも保険を利用するような事故を起こさないための配慮でした。また、安全が確保できない場合や規模や作業自体がボランティアにお願いするにはふさわしくないものについてはお断りしたケースもありました。しかしながらご理解とご協力のおかげで大きな怪我や事故などがなくボランティア活動が行えたことに感謝いたします。

落ちたかわらの片付けや、瓦礫の処理。崩れた石塀を重ねるなどから家具をおこす等ひとりでは大変なこともボランティアさんがチームを作ってお手伝いをしました。

復旧から復興へ

避難所が閉鎖して仮設住宅などへ引越しが終わるとニーズがほとんどなくなりました。4 月中は休みなく災害ボランティアセンターを開設していましたが、5 月より規模を縮小して新規の災害ボランティア募集を休止するとともに、カレンダー通りの窓口開設になりました。

その一方で、仮設住宅への支援活動のため生活支援相談員の配置を行い、国見町住民だけでなく他地区より避難している方たちも分け隔てなく支援していこうと考え、他地区社協とも定期的な会議をもちながら支援をしています。

現在は、災害ボランティアセンターも復興ボランティアセンターと名称を変更するとともに、平成 25 年 8 月から新事務所に移動して生活支援相談員を中心に支援活動を継続しています。仮設住宅談話室を利用してサロン活動を行ったり、町内 4 か所の仮設住宅や借上げ住宅入居者についても定期的に訪問したりするとともに、各種ボランティア団体などと協力をしながらイベントなども開催しています。

まだまだ震災の傷跡は深く残っていますが、被害を受けた皆様にお見舞い申し上げるとともに、お世話になったボランティアさんに心より御礼申し上げます。

「東日本大震災」消防署の対応

伊達地方消防組合中央消防署西分署
分署長　斎藤次夫

伊達消防本部では、大地震発生後直ちに警防本部を設置し、全職員体制で災害対応にあたることを決定いたしました。

また、原発事故が発生し伊達消防管内の川俣町の一部が計画的避難地域に指定されたため、避難して無人となった地区の火災予防にも重点を置くことといたしました。

浜通りの原発周辺地域へは、県内広域消防相互応援協定に基づき、救急隊及び支援隊を数次にわたり派遣いたしました。

西分署においては、全職員 25 人で人命救助最優先の消防活動を実施いたしました。

まず、管内の国見町、桑折町役場の災害対策本部へ職員を出向させ、各町との連絡調整及び情報の収集にあたりました。

地震発生直後から、救急、救助等の要請が数多く入り、一週間で 80 件を数え、国見町には 30 件の出場がありました。

ライフラインが停止したため、救急搬送時の連絡体制構築のため公立藤田総合病院に職員 2 名を派遣し、3 月 16 日まで消防無線を使用して搬送の調整にあたりました。各医療機関で地震による被害が発生し、傷病者の受け入れが困難となる中、藤田病院には当消防本部全体で一週間に 90 件の救急搬送を受け入れていただきました。また、藤田病院へは人工透析で必要となる水を供給するため、タンク車を出動させました。

在宅医療を行っているご家庭では、停電により酸素吸入が出来なくなったため、酸素ボンベの

搬送も行いました。

停電により、練炭等を使用した家庭があり、一酸化炭素中毒症状の救急搬送が数件発生したため、これらの中毒予防や火災予防広報等も重点的に実施いたしました。

大地震による影響を調査するため、消防車両を随時出動させ道路状況、消防水利の損傷状況等の把握には特に留意いたしました。

今回の震災は大規模で広範囲に及んだ上、原発事故を伴うという未曾有の災害に拡大したため、西分署の総力を挙げての災害対応ではありましたが、反省、教訓も多々ありました。

大災害に対処するためには、消防署、消防団等の消防機関のみならず、地域の自主防災組織等の役割も重要と考えられます。消防機関は、防災知識の普及や実効性のある訓練指導等を実施して、自主防災組織の充実化と連携の強化を図り、被害の軽減を図っていかなければなりません。

特に、要援護者等の方々の人的被害防止のためには、関係機関が一丸となり実効性のある避難支援対策を講じる必要があります。

我々消防機関は、今後も災害から地域住民の方々を守るため、全職員が一丸となって「安心して暮らせる街づくり」を目指して全力を尽くしてまいります。

「東日本大震災」警察署の対応

福島北警察署桑折分庁舎
地域係長　佐 藤 晴 彦

１　初動及び活動状況

勤務員及び非常参集した分庁舎所員を方部別に分けて、家屋の倒壊、道路の損壊、信号機滅灯状況等の被害状況の確認を実施した。国見町内においては、家屋、倉庫、外壁等多くの建物の倒壊や液状化による道路や駐車場の陥没等多数の被害が確認されたほか、信号機の滅灯も確認された。そのため、車両通行不能箇所に対する通行止めの措置、及び国道４号公立藤田総合病院前の交差点において交通整理（３／１１）を実施するなど、被害の拡大防止を図った結果、信号機が滅灯している間の交通事故等の発生はなかった。

なお、管内の被害状況確認と並行し、藤田駐在所員を国見町役場の対策本部に常駐させ、災害での情報収集に従事した。

２　応急・復旧対策等

震災に乗じた倒壊家屋等からの窃盗被害防止のための重点警ら、避難所に対する立ち寄り警戒を実施するとともに、応援部隊による避難所、仮設住宅入居の避難者に対する励ましや相談等を実施する等、避難者に対するアフターケア活動を推進した。

３　反省、教訓等

震災のように広域的な緊急突発事案においては、警察だけでは把握対応しきれないことが多

く、この場合、国見町役場や消防等の関係機関との連携が必要不可欠であり、警察官を国見町役場の対策本部に派遣常駐させたことにより、情報収集や被害箇所への早期対策を講じることができた。

震災後、数日間のライフラインの停止があり、国道４号における交通渋滞等が多発したが、警察官の態勢確保にも制限があり、十分なる措置を講じるまでには至らなかった。

病院・施設入居者、及び独居高齢者等の被災弱者の要救助活動、及び危険個所等の損害現状の把握活動、さらには、主要道路や橋梁を封鎖した場合の迅速な迂回ルートへの車両誘導活動の必要性が認められた。

福島県「県民健康管理調査」について

福島県保健福祉部県民健康管理課
主幹　小谷尚克

福島県では、平成 23 年 5 月、東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故による放射性物質の拡散や避難等を踏まえ、県民の被ばく線量の評価を行うとともに、県民の健康状態を把握し、疾病の予防、早期発見、早期治療につなげ、もって、将来にわたる県民の健康の維持、増進を図ることを目的として、全県民を対象とした「県民健康管理調査」を実施することとしました。

当時の行動記録から事故後 4 か月間の外部被ばく線量を推計する「基本調査」については、平成 23 年 6 月下旬から調査票の送付を順次開始し、国見町住民には、同年 9 月に送付、全県では、同年 11 月上旬に調査票の発送を終えました。平成 25 年 12 月 31 日現在、全県での回答数 515,212 件（回答率 25.0%）、国見町については、回答数 2,828 件（回答率 27.3%）、放射線業務従事経験者を除き、国見町回答者の 51.8%が 1mSv 未満、99.5%が 2mSv 未満という結果が得られています。

ホールボディカウンターによる内部被ばく検査については、「基本調査」開始と同時に測定に着手し、18 歳以下の子ども、妊婦を優先に検査を進め、平成 25 年 12 月 31 日現在、県では、全県で 175,278 名の検査を実施しており、国見町住民については、1,984 名を検査、全員が預託実効線量※1mSv 未満との結果であり、健康に影響が及ぶ数値ではありませんでした。

震災時概ね 18 歳以下の全県民を対象とした「甲状腺検査」については、子どもたちの甲状腺の現在の状況を把握するための検査（先行検査）を、平成 23 年 10 月より開始、2 年半をかけ平成 26 年 3 月に終了する見込みとなっています。国見町については、平成 24 年 10 月、小・中学校や公共施設において検査を実施しました。平成 25 年 12 月 31 日現在、全県での受診者数 269,354 名（受診率 80.8%）、国見町ついては、受診者数 1,372 名（受診率 88.1%）となっています。これまでの検査結果では、一定の基準により二次検査の対象となった方は、全県で、総受診者の約 0.7%となっていますが、国が福島県外 3 県で実施した検査でも同様の傾向が確認されています。なお、2 次検査の結果 75 名が悪性ないし悪性疑いとの判定が得られていますが、小児甲状腺がんの医学的知見などに基づき、専門家において、放射線による影響とは考えにくいとの評価がなされてい

ます。さらに、放射性物質による影響が少ない会津地域での検査結果も含めた全県での評価が重要であるとされています。今後の検査については、平成 26，27 年度において、対象者全員の 2 巡目の検査を実施することとし、28 年度からは、対象者が 20 歳までは 2 年ごと、それ以降は 5 年ごとの検査を長期にわたり継続していくこととしています。

現在、放射線に対する不安や風評被害のみならず、震災後、長期避難等で生活環境が変化したことなどによる精神的、身体的健康状態の悪化が指摘されており、県としては、市町村や関係団体等と連携しながら、様々な取組を総合的に実施し、「健康長寿県」を目指すこととしております。

※預託実効線量：体内から受けると思われる内部被ばく線量について、成人で 50 年間、子どもで 70 歳までの累積線量を表したもの。

東日本大震災における下水道災害について

福島県県北流域下水道建設事務所
建設課主任主査　瀧本達也

平成２３年３月１１日に発生した東日本大震災では、震源地に近い浜通りを中心に下水道施設に甚大な被害が発生しました。

県内における下水道施設の被災状況は、２２市町村（原発事故による警戒区域を除く）に及び、管渠、ポンプ場、終末処理場等の被害総額は１９１億円となっています。

阿武隈川上流流域下水道（県北処理区）では、地震直後には停電により、水処理施が一時的に停止しましたが、自家発電により即時に運転を再開しました。

処理場では、最初沈殿池掻機フライト、汚泥処理棟換気ダクト、送風機棟送風機、第１ＳＰ棟外構に破損がありました。また、管路では、土被りの深い管渠に被災はありませんでしたが、開削工法で埋設した管渠において液状化によるマンホールの隆起、水管橋の伸縮可撓管での破損がありました。

特に藤田地内の国見幹線では約１ｋｍにわたりマンホールの隆起、下水道管の破損等により下水道の通水機能が不能に陥りました。その復旧については塩化ビニール管による仮排水や敷鉄板の設置による交通の確保等、応急仮工事を実施し機能回復に努めました。

なお、地震による被災箇所については、平成２４年３月までにすべて復旧を完了しています。

また、地震による損壊とは別に、東京電力福島第一原子力発電所の事故により拡散した放射性物質が下水汚泥に混入し、下水汚泥の処分先から受け入れを拒否された結果、県北浄化センター内に汚泥を一時保管せざるを得ない状況となり、長期間保管による臭いの問題が発生しました。

保管汚泥から発生する悪臭の対策としては、保管用袋の２重化やテント式倉庫への格納、換気装置の設置など取り組んでいますが、完全に臭いを取り除くことはできず、周辺住民の方々には大変な御迷惑をおかけすることになってしまいました。

脱水汚泥の放射線濃度が２００Ｂｑ／ｋｇまで下がってきた平成２４年８月からは一部汚泥の搬出を再開し、現在は日々発生汚泥のほぼ全量を搬出している状況です。

保管している下水汚泥は平成２６年１月末現在で約２５,７８０トン、保管テントの数は７１棟となっています。

これら保管汚泥については、環境省が飯舘村に整備する施設での受け入れが可能となったことから、乾燥により減容化して搬出することとし、乾燥施設建設に１年、搬出処分に２年と約３年程度かかる見通しです。

県北流域下水道建設事務所では、一日も早く震災前の状況に戻せるよう職員一丸となって取り組んで参ります。

福島河川国道事務所における東日本大震災での活動

国土交通省福島河川国道事務所
防災課長　斎藤清見

１．はじめに

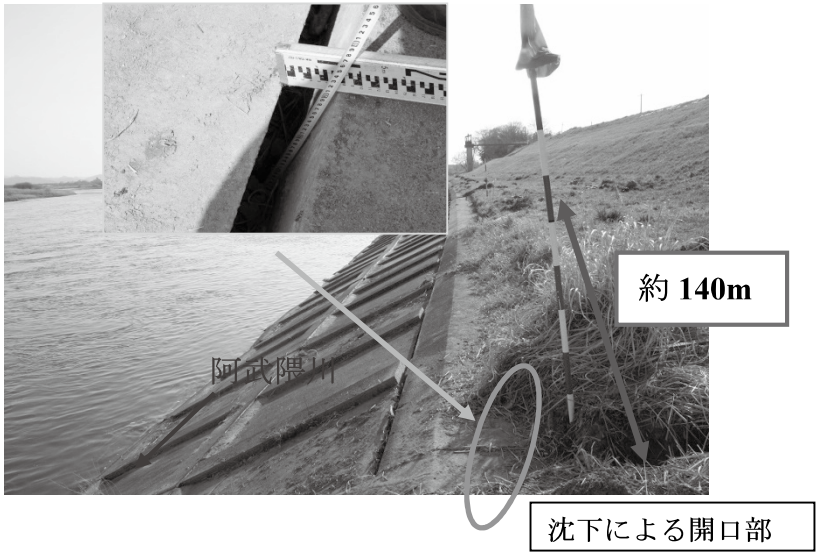
発災後、即時に災害対策支部（非常体制）を設置し、阿武隈川、国道４号・１３号を緊急パトロールして所管施設等の点検を実施し、特に震度６強を観測した国見町をはじめとした県北地方について重点的に施設を確認した。

その結果、阿武隈川では伊達崎橋から東根川水門の区間（伊達市）で約 290mにわたる堤防天端及び法面の崩れや、国道 4 号伏拝（福島市）の上り線側法面が約 220mにわたり崩落し上下線が通行止めとなった他、管内の至る所でクラックや段差などの被害を発見したので、応急復旧を実施した。

２．国見町内において

国見町内では、阿武隈川左岸の徳江地区（徳江大橋上流）において、低水護岸が約 140m にわたり亀裂や沈下が発生、一部欠損しており、融雪期や洪水期での二次被害が生じないよう、応急措置や復旧作業を行った。

徳江地区での被災は、右写真に示すような状況でした。



３．自治体への支援

自治体が迅速で円滑な災害対策を実施するために、福島河川国道事務所では福島県庁へ災害対

策現地情報連絡員（リエゾン）を派遣し、情報収集を行うと共に自治体からの要請等を東北地方整備局へ伝え、必要な支援を行った。

また、福島河川国道事務所で保有する排水ポンプ車を、福島県や相馬市・南相馬市からの要請に応じ、緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）と共に沿岸部へ派遣して、排水作業を行い津波による行方不明者捜索などの支援を行った。

４．最後に

国土交通省では被災自治体への支援活動を目的として、全国各地から緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）や災害対策機械（通信機械・排水ポンプ車等）による支援をはじめ、災害対策現地情報連絡員（リエゾン）派遣などを実施する体制がある。

国見町とは、「災害時の情報交換に関する協定(リエゾン協定)」や「防災情報提供・放送及びテレビ会議システムの運用に関する協定書」を取り交わしており、国見町で大規模な災害が発生した場合には、それらを活用頂き復旧などの応急措置が的確で円滑に実施できるような支援体制となっている。

「東日本大震災」NTT 東日本の取組み

株式会社 NTT 東日本－福島
設備部災害対策担当　松本高幸

１．安否確認のための通信手段の確保

震災直後、東北・関東地方を中心に通常の９倍の通話が殺到したことから、緊急通報等の重要通信を確保するため、最大で９０％の通信規制を実施しました。

そのため、安否確認のため通信手段を確保するために、災害用伝言ダイヤル（１７１）と災害用ブロードバンド伝言板（Ｗｅｂ１７１）の運用を開始しました。

運用を終了した２０１１年８月２９日までに、災害用伝言ダイヤル（１７１）は約３４８万件、災害用ブロードバンド伝言板（Ｗｅｂ１７１）は約３３万件のご利用がありました。これは過去最多のご利用数だった新潟県中越地震時の約１０倍にあたります。

２．仮設住宅設置に伴う回線増設対応（※国見町内設置のみ記載）

（１）　国見町応急仮設住宅【南町田】　（４３戸）

（２）　旧藤田保育所跡地　（１０戸）

（３）　上野台運動公園　（３５戸）
（４）　町民運動場　（１２戸）

３．福島原発エリアでの通信ビル復旧

福島第一原子力発電所から約１０km 地点にあり、立ち入りが制限されていた磐城富岡ビル。

このビルも震災後の長時間の停電により機能が停止していました。

しかしこの磐城富岡ビルは原発から２０～３０km の屋内避難指示区域（当時）をカバーする５つの通信ビルの上位ビルでもあり、この地域で生活しているお客様の固定通信及び携帯電話の基地局回線を復旧させるためには、磐城富岡ビルの機能回復が不可欠でした。

避難所にネット環境

NTT東日本ー福島

福島、郡山に設置

NTT東日本―福島は、福島市のあづま総合体育館と郡山市のビッグパレットふくしまの避難所で、被災者がインターネットを利用できる環境を設けた。被災者たちにNTT東日本とNTT西日本が運営する災害用ブロードバンド伝言板「web171」の利用や、避難所の周辺情報など必要な情報を得るために役立てほしいと提供。あづま総合体育館には23日に4台、ビッグパレットふくしまには24日に8台のパソコンを設置した。

大勢の人が利用できるようにと、午前10時から午後4時ごろまでを目安に同社職員4人を配置。高齢者ら使用方法が分からない被災者にも利用をサポートしている。

同社職員によると、周辺情報やweb171の利用のほか、公共機関の窓口へのアクセスが多いという。

避難者に利用方法を教える職員＝あづま総合体育館

このため、電力会社の協力を得て電力供給を確保するとともに、特別体制でビル機能の復旧にあたりました。

国見町復興計画【概要版】

国見町は、東日本大震災からの復旧・復興と、震災以前の活力に回復させ、更なる町民生活の発展を目指すため、国見町復興計画を策定しました。

■復興計画の理念と将来像

・基本理念…「国見町民であることに喜びと誇りをもち、心あわせて希望に満ちた未来を創るまち」

・将来像　…「心あわせて希望に満ちた豊かで生きがいのある国見町」

第５次国見町振興計画を補完し、下位に位置づけるものとして、復興に向けた取り組みを体系化する。

■計画期間の目標

重点プロジェクトと復興計画事業を掲げ、強力に推進する。

■計画期間

復旧期間：平成２３年度～平成２４年度（震災から概ね２年）

復興期間：平成２５年度～平成２７年度

＊平成２８年度以降は、第５次国見町振興計画の後期計画と合わせて位置づける。

■復興へ向けた重点プロジェクト

１、役場庁舎の復旧

２、放射線量低減対策の推進

３、被災者の再建支援

４、災害廃棄物の処理

５、道の駅整備の推進

６、特別養護老人ホームの立地推進

■復興へ向けた施策の展開

施策１【被災者の生活支援】

復興に向けての課題

１．被災した町民の中には、体調の不調や様々なストレスを抱えて心身の健康が阻害されている場合もあり、特に高齢者や障がい者、避難生活を送っている方々に閉じこもりや認知症の悪化などが懸念されている。

２．応急仮設住宅など避難先で生活されている方をはじめ、震災後の生活環境の変化を受けた町民の生活習慣病の改善に向けた健康管理が必要となっている。

３．幼児、児童生徒は、地震によるストレス障害や放射能の影響を低減するための対策（外遊びの制限）等による環境の変化などが悪影響を及ぼしている。

４．応急仮設住宅などでは、避難生活により生活圏が分散され、慣れない生活を送ってい

るため、従来からの人と人との繋がりが途切れがちとなっており、地域コミュニティ機能の低下が懸念される。

復興に向けての対策

１）被災した町民の心の健康を保持するため、高齢者や障がい者、避難先で生活されている看護を必要とされる方に配慮しながら、心身の状態や生活状態に応じた心のケア対策を推進するとともに、生きがいを感じながら安心して生活できるよう支援する。

２）疾病の早期発見と治療、予防、健康回復のため、保健と医療の連携を図り、健康管理に努めることとする。さらに国見町を避難先として生活されている方についても、安心して生活を送れるように、町支援相談員、民生委員による見守りや問題把握により、生活環境の改善に努めることとする。

３）子どものケアに関する対策や啓発を、家族・学校・地域などと連携するとともに、スクールカウンセラーや教育相談員などによる相談事業の拡充を進める。

４）被災した町民の様々な課題解決に向け、震災により大きな被害を受けた町民、さらには高齢者や障がい者、また国見町に避難し生活されている方々の生活支援を推進し、被災者自身の自助、地域における共助を育みながら関係機関との連携による公助によって、お互いに支え合う地域づくりを推進する。

５）被災し負担能力を著しく喪失した納税者の町税等の減免措置や震災に伴う適正評価、特例措置の認定を行うための取り組みを進める。

≪具体的に取り組む主な事業≫

被災者生活再建支援事業、仮設住宅管理運営事業、仮設住宅のコミュニティ支援事業

生活・消費者相談事業、仮設住宅巡回訪問指導事業、地域福祉計画策定事業、シルバーふれあいサロン事業、健康相談事業、こどもたちの心のケア事業、町税等減免事業、評価替え適正化事業、被災土地、代替土地・家屋特例対象認定事業

施策２【放射能被害に向き合うための支援】

復興に向けての課題

１．福島第一原子力発電所における原子力災害では、半減期の長い放射性物質も拡散したため、長期にわたる対策が必要となっている。これにともなう費用は当然、国と原因者である東京電力が負担することとなっているが、町民が安心して快適に生活するため町は全力を尽くす必要がある。

２．放射線の影響を受けやすい幼児、児童生徒に対する対策が急務となっている。

３．県北浄化センターでは下水汚泥の処分ができず、周辺住民の健康被害が発生している。

４．放射性物質の風評被害により水稲、果樹、野菜等の生産により大きな影響を及ぼしており、町内で生産される農作物の安全性を把握する必要がある。

復興に向けての対策

１）放射性物質の除去（除染）を早期に実施することが環境改善の根本対策となっており、

被曝線量の低減を図るために「除染に関する緊急実施基本方針」及び放射性物質汚染対処特措法の完全施行後は、これに基づく除染計画に基づき、計画的な除染を行う。
２）空間放射線量を継続的に把握するとともに、その結果を町民に公表する。
３）放射能の影響を受けやすい幼児、児童生徒に対しては、積算線量の継続的な把握が必要となっている。定期的な健康管理を支援するとともに放射線に対する正しい知識を提供し、保護者の安心の醸成を確保する。
４）県北浄化センター（アクアクリーンあぶくま）において発生している放射性物質を含んだ下水汚泥について、国、県、東京電力の責任による即時搬出の実現を図る。
５）町内で生産される農産物に対するモニタリング調査を行うとともに、農地・山林等における放射性物質の低減に取り組み、消費者の安心と信頼の確保を目指す。
≪具体的に取り組む主な事業≫
放射線測定事業、放射性物質濃度調査事業、線量低減化活動支援事業、除染事業、町営住宅・町道・側溝の除染事業、幼児・児童生徒放射線対策事業、妊産婦及び乳幼児の放射線対策事業、農業生産物に対する放射線モニタリング事業、水道放射能モニタリング事業、放射能災害の情報開示事業

施策３【暮らしの再建支援】
復興に向けての課題
１．今回の震災により住宅被害は町内全域に及び、宅地の地盤や法面・擁壁などに深刻な被害が発生した。
２．低所得者、高齢者世帯など住宅の自主再建が困難な方がいる。
３．応急仮設住宅や民間賃貸住宅などに避難した生活を余儀なくされている方々の入居期間は２年以内に限られていることから、被災住宅の再建が困難な方に対する住宅確保が必要となっている。
復興に向けての対策
１）震災により損壊した家屋等の解体処理を進め、被災者の再建を支援する。
２）被災者生活再建支援法による支援金の円滑な手続きを行い、早期の住宅再建を支援する。
３）高齢者や障がい者などで、住宅の自主再建が困難な方には、生活実態に即した住宅支援を行うための提案、相談を行う。さらに住宅の自主再建が困難な方などの意向をもとに、町営住宅への優先入居などを進める。
４）被災した公共施設の復旧を進める。
５）一般住宅に対する耐震診断や耐震改修を支援する。
６）安定した居住環境の確保のため、国見ニュータウンの分譲促進を図り、定住化促進を進める。
７）特別養護老人ホームの立地を推進する。

８）太陽光発電設備等の設備の設置を推進する。
≪具体的に取り組む主な事業≫
損壊家屋等解体処理支援事業、木造住宅耐震化事業、公共土木施設等災害復旧・防災整備事業、公共施設災害復旧事業、下水道管路復旧事業、施設整備計画策定、公園復旧事業、文化財関連施設復旧事業、緊急発掘調査事業、特別養護老人ホーム整備推進事業、太陽光発電設備等導入促進事業

施策４【防災体制の整備】
復興に向けての課題
１．今回の震災では、町内の道路網が各所で被害を受けるとともに鉄道が長期間の運休を余儀なくされ、町外への交通手段に支障をきたした。さらに、電気・上下水道などライフラインも全面的に停止し、町民に大きな影響を及ぼした。
２．震災によって役場庁舎が大きな被害を受けその機能を失い、一時的に行政サービスが停止した。現在は緊急避難的に観月台文化センターに役場機能を移転しているが、町民の生涯学習活動に支障が起きている。
３．大規模な災害では、行政だけによる高齢者や障がい者など災害時要援護者初期対応に限界がある。
復興に向けての対策
１）自助（自分の身は自分で守る）共助（自分たちの住んでいる地域は自分たちで守る）公助（公共機関からの救助・支援）のそれぞれの役割を明確にし、それらが互いに連携し協働できる体制づくりを推進する。
２）自主防災組織の支援を図るとともに、関係組織との連携を強化し、地域リーダーの育成に努め、町民の防災意識の醸成や地域内での共助を進めていく。
３）防災行政無線の構築と合わせて、災害時・緊急時の連絡体制を図る。
４）都市計画マスタープランにおいて、防災を意識した「まちづくり」を進める。
５）災害時に必要な食料品や生活必需品の備蓄や定期的な更新を図る。
６）高齢者や障がい者などの災害時要援護者への支援体制の強化を図る。
７）災害時に避難路、物流運搬となる主要道路など被災した場合、早期に交通確保ができる対策を行う。
８）上下水道の耐震化を図る。
≪具体的に取り組む主な事業≫
庁舎復旧事業、防災行政無線運営事業、災害時要援護者情報整備事業、緊急時管理体制構築事業、上水道施設耐震化促進事業、地域防災計画の見直し事業、都市計画マスタープラン策定事業、緊急時通信手段確保事業、災害備蓄品整備事業、下水道施設緊急時管理体制構築事業、エリアメール配信事業、情報通信手段整備事業、防災教育事業、地域防災力向上事業、自治体間における相互応援協定推進事業、公民館教育事業、多種多様なメディア

を活用した戦略的情報発信事業、職員向け緊急連絡・安否確認システムの導入事業

施策５【経済と雇用の回復】

復興に向けての課題

１．今回の震災により、町経済は深刻な状況に陥っており、原発事故の放射能汚染被害と風評被害からの再生と発展が必要となっている。

２．震災により、これまで地域経済や地域の雇用を支えてきた事業所などは休業や規模縮小を余儀なくされており、縮小した企業活動の事業の再生とともに職を失った方々の雇用機会を確保することが必要となっている。

３．地震による原発事故の収束の見通しが今なお立っていない中、事業所、企業、商店街等の再生に向けた支援が必要となっている。

復興に向けての対策

１）震災の影響による観光・文化財の早期復旧と、復興によるキャンペーンの開催などＰＲ活動を強化し、イメージアップを図るための活動を積極的かつ強力に展開し、集客力の向上を図る。

２）農地、林地の除染を進め、果樹生産の支援を行うとともに、産学官の連携を図りながら、町内の資源を有効に活用するためのグランドデザインを策定する。

３）道の駅の設置により、商店街の活性化を図り、農業の６次化や新たなコミュニティビジネス、ソーシャルビジネスの展開を図る。

４）地域の特性を生かした新たな特産品の開発を支援する。

５）被災事業所の再建と経営安定化を支援する。特に震災により、休業や規模縮小を余儀なくされた事業所に早期の再開に向けた働きかけを行い雇用の回復を図る。

≪具体的に取り組む主な事業≫

農業マスタープラン策定事業 緊急雇用創出事業（震災対応事業）、商店街再開発マスタープラン策定事業、道の駅設置整備事業

■この計画の実現に向けて

国見町が震災前の姿を取り戻すだけでなく、安全・安心・希望のもてる国見町を目指しこの計画策定を行った。計画の実現にあたっては、第５次国見町振興計画で定めた施策との連動を図ることとする。

検証のまとめ

国見町東日本大震災検証委員会では、課題整理のため、町民の皆さんからの意見募集や、委員として参画している関係機関からの報告などをまとめました。

１．課題の整理

「東日本大震災に関する意見募集」集計結果や、関係機関からの報告を踏まえ、課題を整理すると、以下のようにまとめられます。

（１）情報周知に関する不満

全ての地区において、「情報伝達が遅い」「情報が届かない」などの情報周知に関しての不満が多く見受けられました。

特に情報を必要とした内容は、

『避難所の開設情報』

『町内の被災の状況の情報』

『断水や給水の方法・時間・場所、支援物資の情報』です。

情報を早い段階で取得でき、各種支援を受けられた住民と、そうでない住民で、満足度が異なっている可能性があります。

（２）給水・支援物資等

○備蓄に関する行政への要望は強い。

○給水に関しては、高い評価をしている住民もいたが、不満意見が多い。

○避難所以外の場所に避難したり、自宅にとどまっていた住民へ、給水・物資が届かなかった。

○限られた財政の中で、行政が全てを備蓄することは現実的には厳しいため、住民の皆さんにも一定の備蓄をお願いする必要がある。

（３）避難に関する考え方

○避難所に関する不満は、藤田地区に多い傾向がある。

○避難所として指定されていない自宅や事業所等への避難者の受け入れに関する考え方の整理が必要である。

○避難所の運営全てを行政でまかなうことは困難であり、避難所運営に関するルール等も今後の課題である。

２．課題への対応

東日本大震災において被災するとともに、国見町としては災害対応上の課題が、上記のように顕在化したわけであり、それらを改善する方向としては、以下のとおりです。

（１）大規模災害時における「公助」の役割を再認識する

町が住民の生命・身体・財産を守ることは防災機関としての使命である。全力で対応に当たる。

しかし、大規模災害時には、全員が被災者となることもあり得る。限られた物資・人員で行えることには限界が存在し、事前準備や職員教育等により効率化を進め、限界を引き上げることも必要である。

（２）住民側の「自助」「共助」に対する意識の低さ

「自助」「共助」の必要性を認識しつつ、それらの範囲を十分認識し、捉え

ることも必要である。

災害に遭う「時間、場所、状況」は様々であり、いつも家族と一緒とは限らない。自分が被害に遭わない保証はない。

最低３日分の備蓄をすることで、発災直後の過ごし方に大きな差が生じる。

（３）「自助」「共助」「公助」のバランスを考慮した共通認識の不足

災害時には、様々な主体が同調・連携した活動や行動が必要である。自分たちでできること、地域でできること、防災機関が行うことのバランスを取ることが大事である。

３．取り組みの基本的な考え

今後国見町において取り組むべきものとしては、「自助」「共助」「公助」の考え方を整理した上で地域防災計画の見直しを行うとともに、各関係機関や住民組織等が連携した地域防災計画に基づくマニュアル等を作成し、その具体的推進に向けて努めてもらいたい。

国見町復興計画に基づく各種事業を効果的に行い、町の復旧・復興をさらに加速させ、安全・安心なまちづくりを実現していただきたい。

※「自助」とは、家庭で日頃から災害に備えたり、災害時には事前に避難したりするなど、自分で守る事を言います。
「共助」とは、地域の災害時要援護者の避難に協力したり、地域の方々と消火活動を行うなど、周りの人たちと助け合うことを言います。
「公助」とは、役場や消防・警察による救助活動や支援物資の提供など、公的支援のことを言います。
災害時には、自助・共助・公助が互いに連携し一体となることで、被害を最小限にできるとともに、早期の復旧・復興につながるものとなります。